

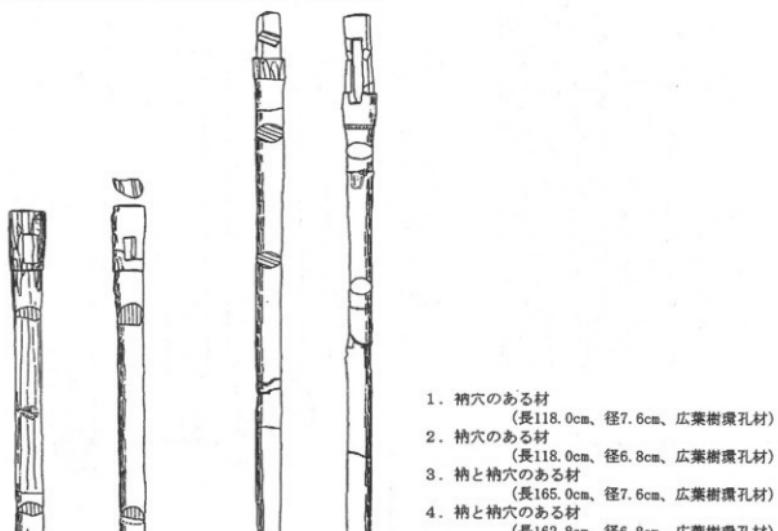
遺跡名：東土川西遺跡

所在地：京都府向日市

弥生時代後期

長岡京跡発掘調査研究所・(財)向日市埋蔵文化財センター2003

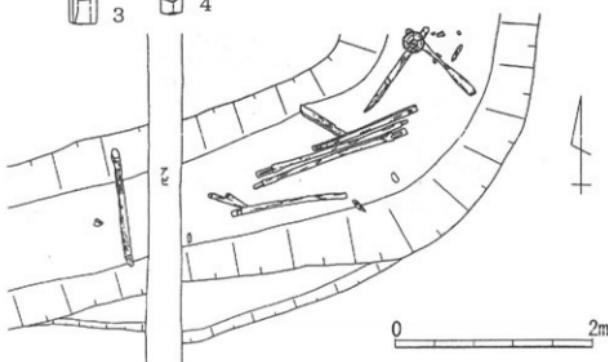
『長岡京跡発掘調査研究所調査報告書 長岡京跡・東土川西遺跡・修理式遺跡』  
奈良国立文化財研究所1993『木器集成図録』近畿原始篇



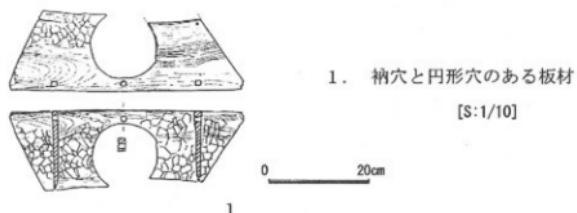
[S:1/10]

0 20cm

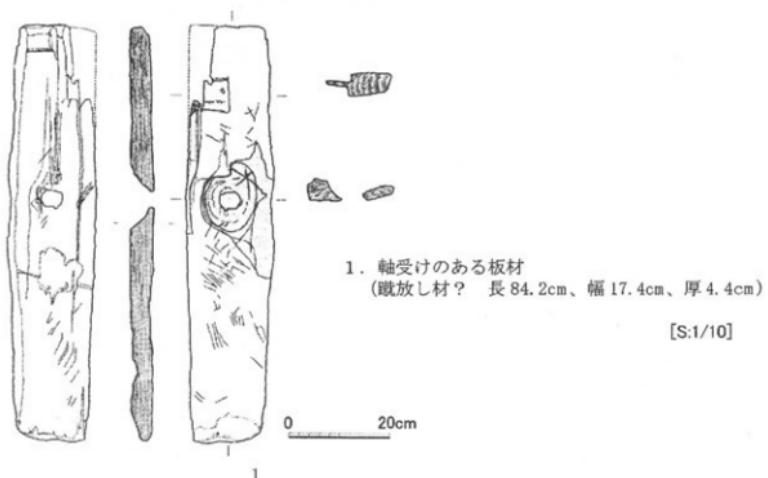
建築部材出土状況  
(旧流路 S D 3604)



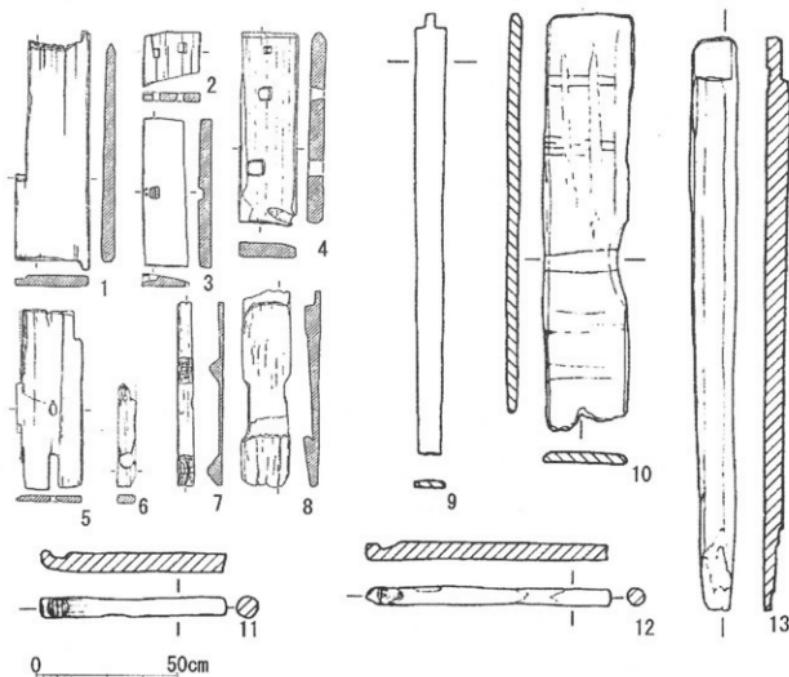
遺跡名：内里八丁遺跡　所在地：京都府八幡市　弥生後期末～古墳初頭  
(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 2001『内里八丁遺跡II 京都府遺跡調査報告書第30冊』



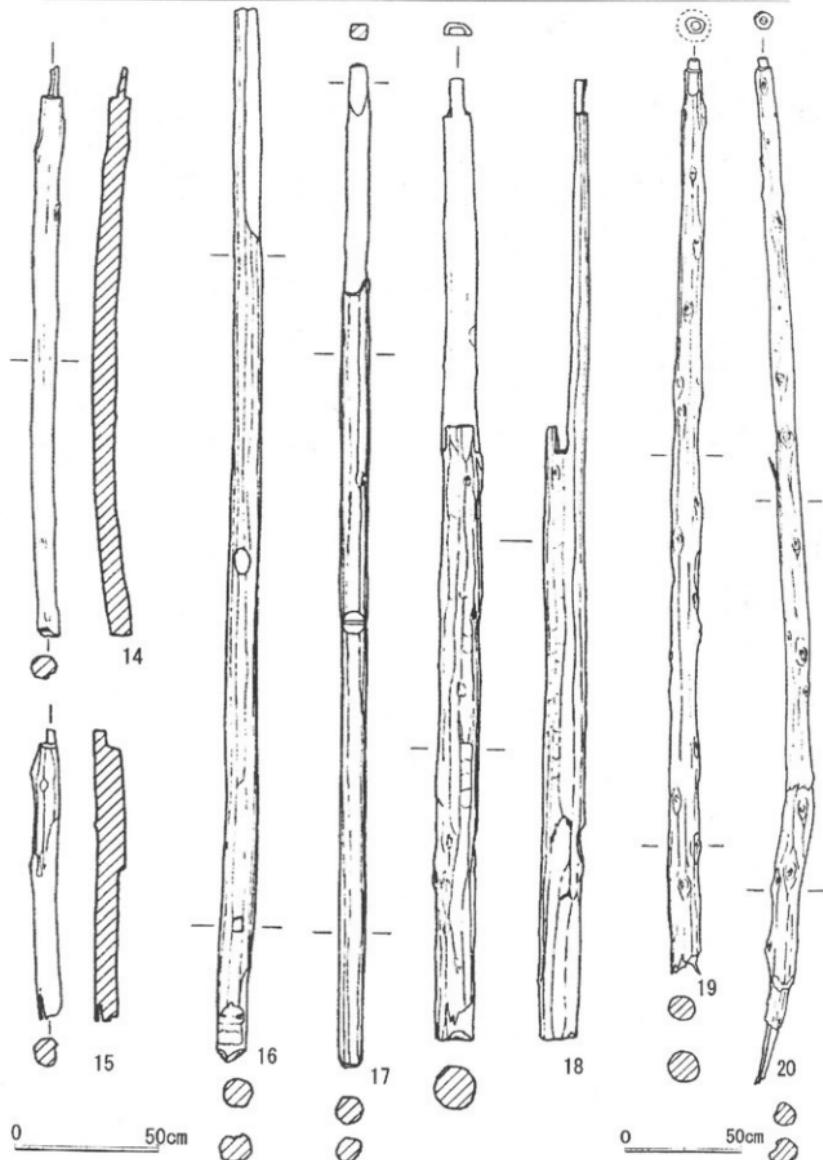
遺跡名：長岡京跡（第161次調査）　所在地：京都府向日市　古墳時代  
向日市教育委員会 1988『向日市埋蔵文化財調査報告書第22集』

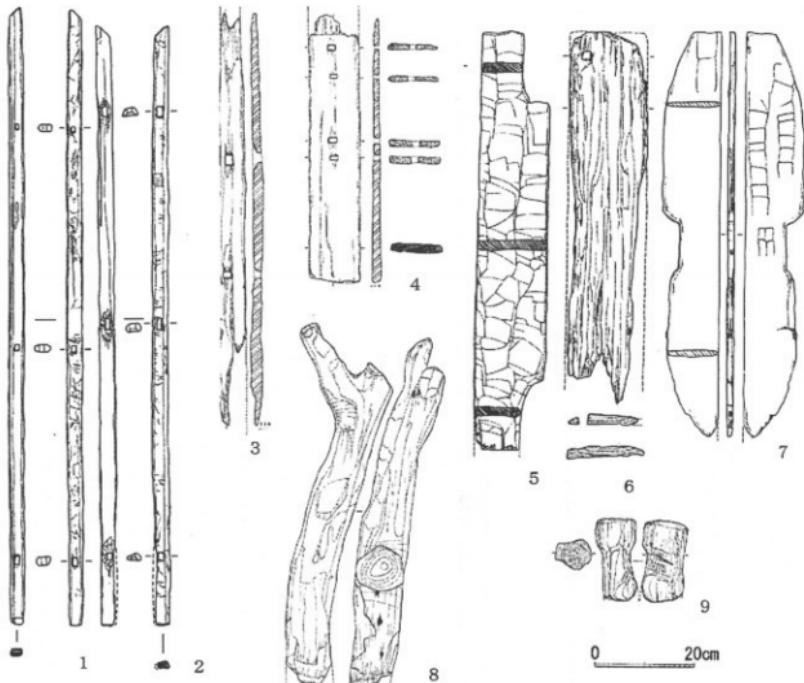


(財) 京都市埋蔵文化財研究所 1998『水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第17号



1. 軸部のある板材（扉板、長97cm、幅25cm、厚4cm）  
2. 納穴のある板材  
3. 貫通穴のある板材（長60cm、幅15cm、厚5cm）  
4. 納穴のある板材  
5. 孔と抉りのある板材  
6. 丸い納穴のある板材  
7. 梯子（長81cm、幅19cm、厚6.5cm、段間39cm）  
8. 梯子（段間33cm）  
9. 端部に納のある材  
10. 扱りのある板材  
11. 欠込のある材（垂木）  
12. 欠込のある材（垂木）  
13. 端部に納のある材（柱材） [S:1/20]
14. 端部に納のある材（柱材）  
15. 端部に納のある材（柱材）  
16. 棋穴のある材（柱材、長430cm、径14cm）  
17. 端部に納のある材（柱材）  
18. 端部に納のある材（柱材、長390cm、径17cm）  
[S:1/20]
19. 端部に納のある材（柱材）  
20. 端部に納のある材（柱材） [S:1/25]

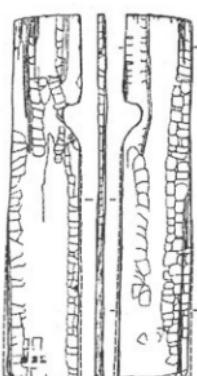




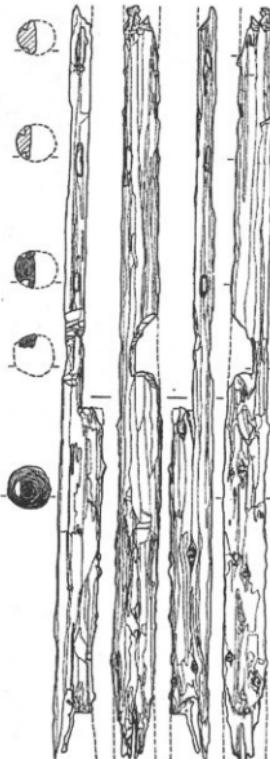
1. 納穴があり端部が斜めの材（建物の側柱？ 構造部材に転用、長 242.9cm、幅 6.0cm、厚 3.7cm、スギ）
  2. 納穴があり端部が斜めの材（建物の側柱？ 構造部材に転用、長 248.8cm、幅 6.4cm、厚 3.6cm、スギ）
  3. 納穴のある材（長 83.6cm、幅 5.3cm、厚 2.3cm、スギ？）
  4. 納穴のある板材（長 54.2cm、幅 10.2cm、厚 1.7cm、スギ？）
  5. 納のある板材（長 84.6cm、幅 13.7cm、厚 2.3cm、スギ？）
  6. 納穴のある板材（長 75.0cm、幅 15.8cm、厚 2.1cm、スギ？）
  7. 扱りがあり端部が斜めの板材（壁板、長 81.0cm、幅 12.0cm、厚 1.0cm、スギ？）
  8. 又のある材（柱材、長 70cm、径 9cm、クリ）
  9. 扱りのある材（長 16.6cm、径 7.2cm、広葉樹（クリ？））
- [S:1/10]
10. 孔のある板材（長 150.0cm、幅 38.0cm、厚 2.0cm、スギ）
  11. 扱りのある板材（長 152.4cm、幅 28.4cm、厚 4.1cm、スギ）
  12. 孔のある板材（長 107.1cm、幅 15.0cm、厚 2.4cm、スギ）
  13. 孔のある板材（長 96.0cm、幅 29.0cm、厚 1.0cm、スギ）
  14. 納穴があり端部が斜めの板材（壁板、長 152.0cm、幅 9.0cm、厚 2.0cm、スギ？）
  15. 納穴があり端部が斜めの板材（壁板、長 98.6cm、幅 11.4cm、厚 3.0cm、スギ？）
  16. 納穴と段のある材（高床建物の柱材、構造部材に転用、長 304.0cm、径 16.8cm、スギ）
- [S:1/20]



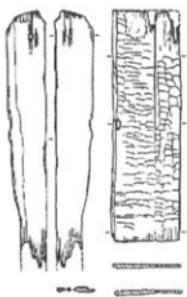
10



11

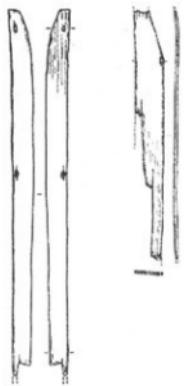


16



12

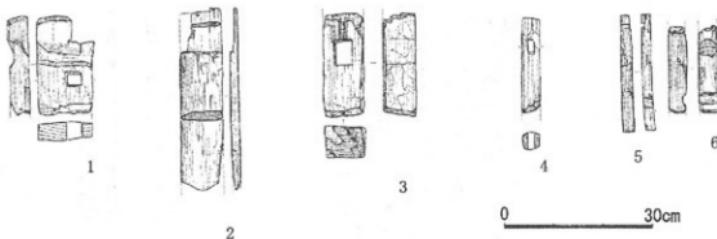
13



14

0 40cm

15



1. 拾りと枘穴のある板材（柱材？長 20.0cm、幅 10.7cm、厚 4.1cm）
2. 段のある板材（長 37.3cm、幅 8.4cm、厚 2.0cm）
3. 纮穴のある材（長 20.9cm、幅 7.3cm、厚 6.3cm）
4. 纮穴のある材（長 19.3cm、幅 3.5cm、厚 3.5cm）
5. 欠き込みのある材（長 23.8cm、幅 2.3cm、厚 1.9cm）
6. 欠き込みのある材（長 17.8cm、幅 3.9cm、厚 3.7cm）

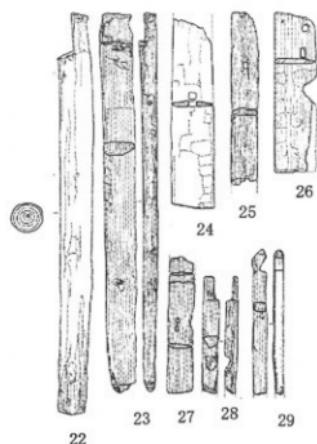
[S:1/10]

7. 欠き込みのある材（垂木、長 208.7cm、幅 2.6cm、厚 3.1cm）
- 8 ~ 20. 欠き込みのある材（垂木、9 : 長 89.5cm、幅 3.5cm、厚 4.5cm）
21. 纮穴のある板材（長 141.9cm、幅 5.5cm、厚 1.3cm）
22. 段のある材（柱材、長 117.1cm、径 9.1cm）
23. 段のある材（柱材、長 156.0cm、幅 12.2cm、厚 5.8cm）
24. 纮穴のある材（長 77.8cm、幅 17.4cm、厚 2.4cm）
25. 纮穴のある材（長 70.9cm、幅 9.9cm、厚 3.2cm）
26. 纮穴と拾りのある材（長 65.8cm、幅 16.0cm、厚 2.0cm）
27. 纮穴と欠き込みのある材（長 57.3cm、幅 10.0cm、厚 1.8cm）
28. 段のある材（柱材、長 53.0cm、幅 6.1cm、厚 4.9cm）
29. 欠き込みのある材（垂木、長 60.0cm、幅 5.0cm、厚 3.6cm）
30. 柱状に組み合わせた製品（部材 11点で長 164.9cm、幅約 74cm、厚 8.6cm）
31. 纮穴のある板材（長 81.7cm、幅 18.0cm、厚 2.0cm）
32. 拾りのある材（柱材、堰材に転用、長 117.3cm、幅 12.7cm、厚 8.5cm、針葉樹）
33. 纮穴のある板材（土木部材に転用、長 107.6cm、幅 11.1cm、厚 1.5cm）
34. 纮穴と段のある板材（土木部材に転用、長 170.3cm、幅 13.7cm、厚 3.4cm）
35. 纮穴のある板材（土木部材に転用、長 107.6cm、幅 11.1cm、厚 1.5cm）

[S:1/20]

遺跡名：古殿遺跡（第3次調査） 所在地：京都府京丹後市 古墳時代前期

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 1988『古殿遺跡 京都府遺跡調査報告書第9冊』

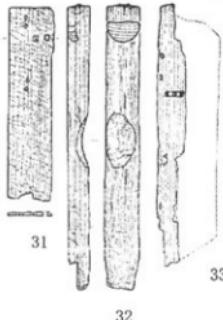
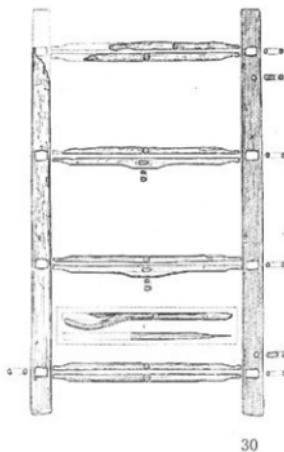


7

8~20

21

22



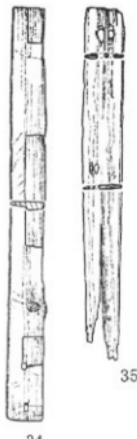
31

32

33

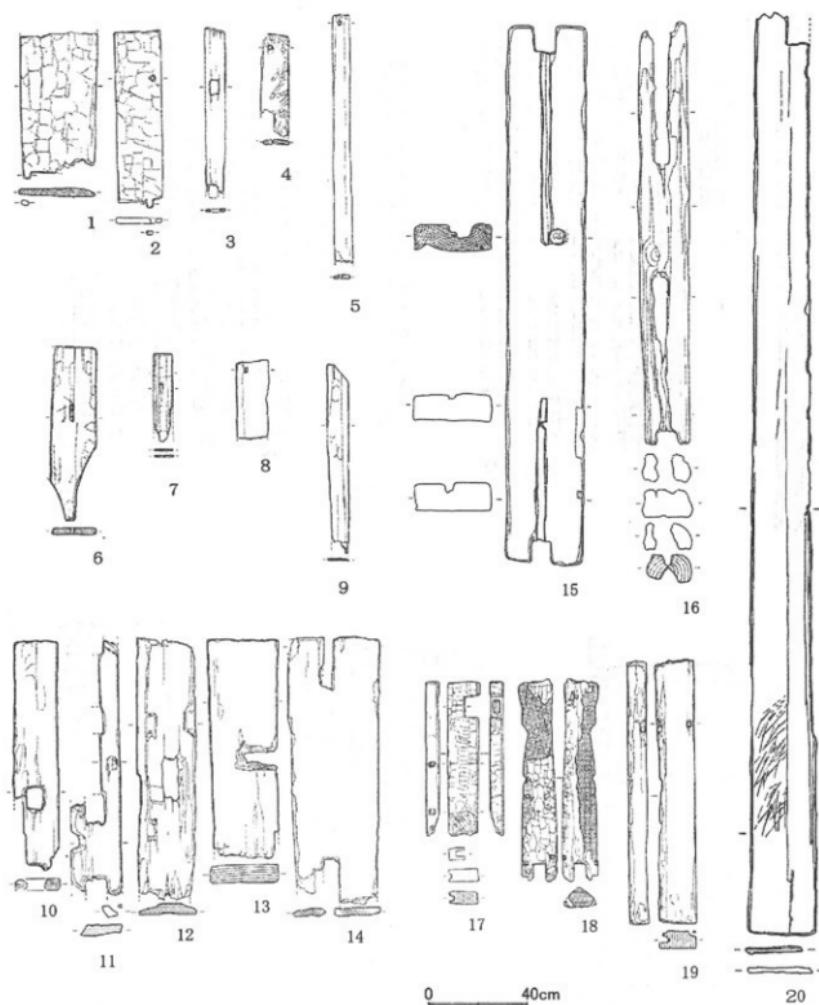
0 60cm

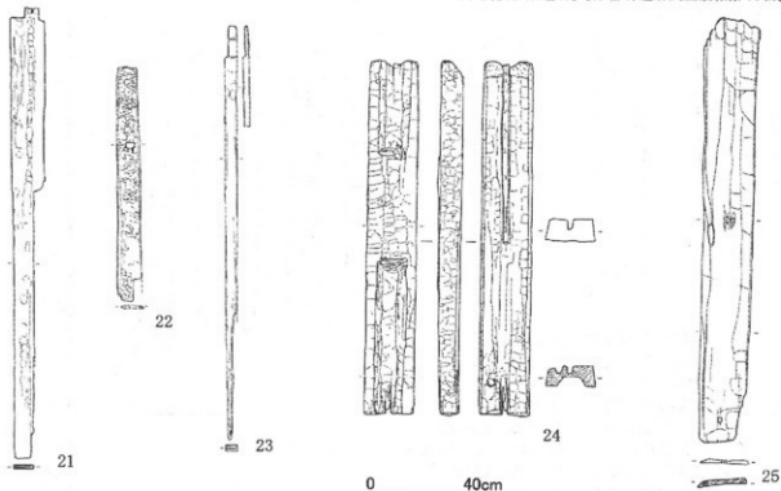
30



34

35





1. 軸部のある板材 (扉板)  
 2. 軸と円孔のある板材 (窓材?)  
 3. 方孔のある板材  
 4. 方孔のある板材  
 5. 方孔のある板材  
 6. 1対の方孔と切り込みのある板材  
 7. 方孔のある板材  
 8. 方孔のある板材 (壁板?)  
 9. 端部が斜めの板材 (壁板?)  
 10. 方孔のある板材  
 11. 方孔と棲穴のある板材  
 12. 渡廊仕口のある板材  
 13. 切り込みのある板材  
 14. 切り込みのある板材  
 15. 軸受けと溝のある材 (蹴放し材、長220cm、幅31cm、厚12cm)  
 16. 貫穴と枘穴のある材 (主柱? 直径20cm)  
 17. 合欠仕口と非貫通孔のある材 (桁材)  
 18. 棋穴のある材 (棟木? 幅13cm、厚8cm)  
 19. 溝と棲穴のある材 (柱材?)  
 20. 板材 (壁板? 長380cm以上、幅26cm)

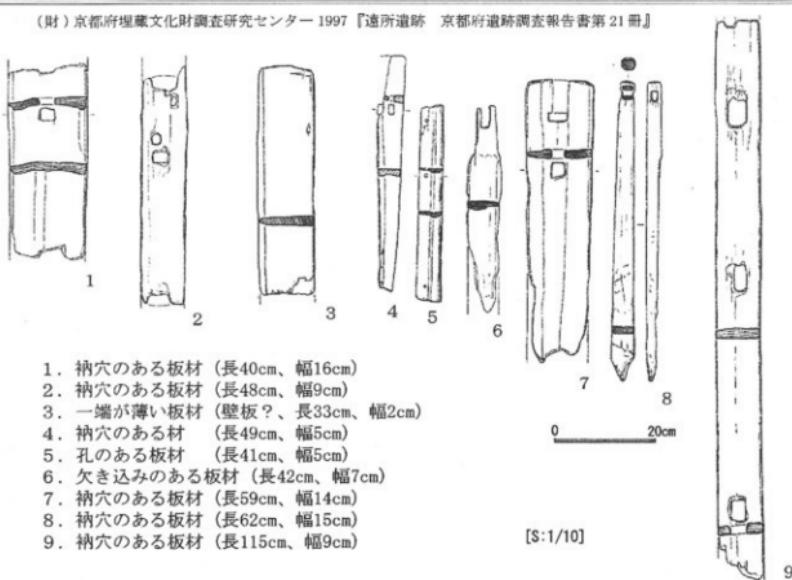
[S:1/20]

遺跡名：遠所遺跡

所在地：京都府京丹後市

古墳時代後期

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997『遠所遺跡 京都府遺跡調査報告書第21冊』

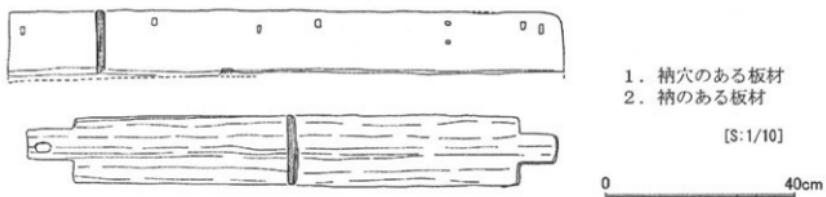


遺跡名：アバタ遺跡

所在地：京都府京丹後市

古墳時代後期

京都府教育委員会 1990「4 国営農地開発事業関係遺跡平成元年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1990)』

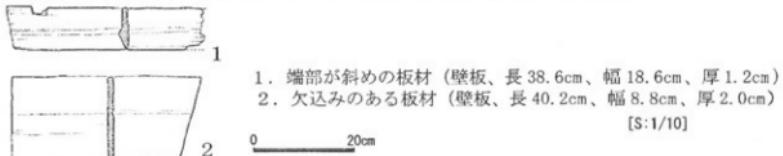


遺跡名：石本遺跡

所在地：京都府福知山市

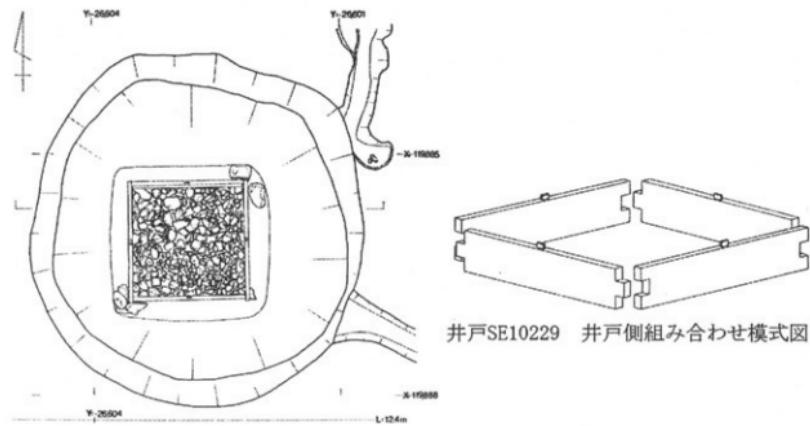
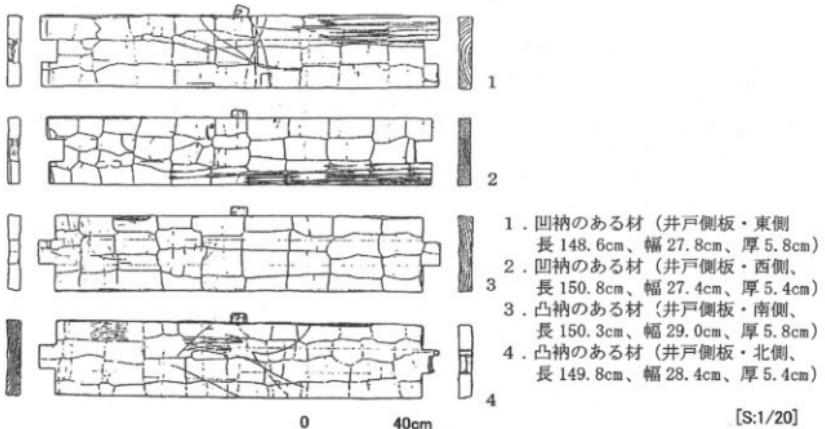
古墳時代後期

(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987『石本遺跡 京都府遺跡調査報告書第8冊』



遺跡名：長岡京跡（左京第102次調査） 所在地：京都府長岡京市 長岡京期

（財）長岡京市埋蔵文化財センター 1985「第1章 長岡京跡左京第102次調査概要」『長岡京市埋蔵文化財調査報告書第2集』



井戸SE10229 井戸側組み合わせ模式図



井戸SE10229 実測図

## 大阪府の概要

正岡大実・井上智博

大阪府においては、明確に建築部材と認定できる木製品は少ない。建築部材として報告されているのは、梯子、扉などの特定部位材がほとんどである。これについては、建築部材の認定基準が曖昧であることにも一因がある。今回は、有頭棒や板状部材については、報告書で建築部材の可能性が指摘されているものに限って集成した。

以下、出土した建築部材について、時期別に概要をまとめておきたい。

まず、縄文時代に関しては、木製品自体がほとんど出土しておらず、現在のところ建築部材と思われるものは確認されていない。

弥生時代に関しては、池上曾根遺跡、瓜生堂遺跡、鬼虎川遺跡などから、梯子、柱、扉が出土しているが、出土数は少なく、実態は不明な点が多い。樹種に関しては、アカガシ亜属、サカキ、モミ属、タブノキ、ユツリハなどがあり、現状では一定の傾向は見出せない。

最も出土数が多いのは古墳時代であり、下田遺跡、尺度遺跡、久宝寺遺跡、長原遺跡、溝咲遺跡などから、梯子、扉、柱などが出土している。仕口に関しては、貫穴、ほぞが確認されるものの、出土数が少なく、当該時期の傾向を示すことは困難である。樹種にはアカガシ亜属、モミ属、ヒノキ、ツブライジ、スギなどがあり、特定の樹種にかたよる傾向は見出せない。

大阪府においても、用途不明の部材の出土事例は少ないのでなく、明確な観察視点が確立できれば、その中から建築部材と認定できるものが出てくる可能性はきわめて高い。今回のシンポジウムなどを通じて詳細な検討がおこなわれ、建築部材の観察方法が確立されることを望みたい。また、樹種に関しては、報告書に記載のない事例が少なくない。こうした現状については、調査担当者の問題意識にも原因があるように思われる。樹種は、当時の人々による用材選択の実態を知る上で重要な情報があるので、今後は樹種同定を積極的におこない、報告書に記載されることを望みたい。

仕口総括表

時代	貫穴	渡りあご	相欠き	ほぞ
縄文	×	×	×	×
弥生	○	×	△	○
古墳	○	×	×	○
飛鳥	△	×	×	△

### 文献一覧

豊中・古池調査会 1976『豊中・古池遺跡発掘調査概報そのⅢ』

利倉遺跡発掘調査団 1976『利倉遺跡』

東大阪市教育委員会 1979『鬼塚Ⅱ・若江遺跡発掘調査報告』

(財) 東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会 1988『鬼虎川遺跡第19次発掘調査報告』

大阪府教育委員会・(財) 大阪府埋蔵文化財協会 1989『陶邑・大庭寺遺跡』

大阪府教育委員会 1991『讚良郡条里遺跡発掘調査概要Ⅱ』

大東市北新町遺跡調査会 1991『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』

(財) 八尾市文化財調査研究会 1993『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』

大阪府教育委員会・(財) 大阪府文化財調査研究センター 1993『河内平野遺跡群の動態VI』

奈良国立文化財研究所 1993『木器集成図録 近畿原始編』

大東教育委員会 1994『北新町遺跡発掘調査報告書』

高槻市教育委員会 1995『芥川遺跡発掘調査報告書』

(財) 大阪府文化財調査研究センター 1996『下田遺跡』

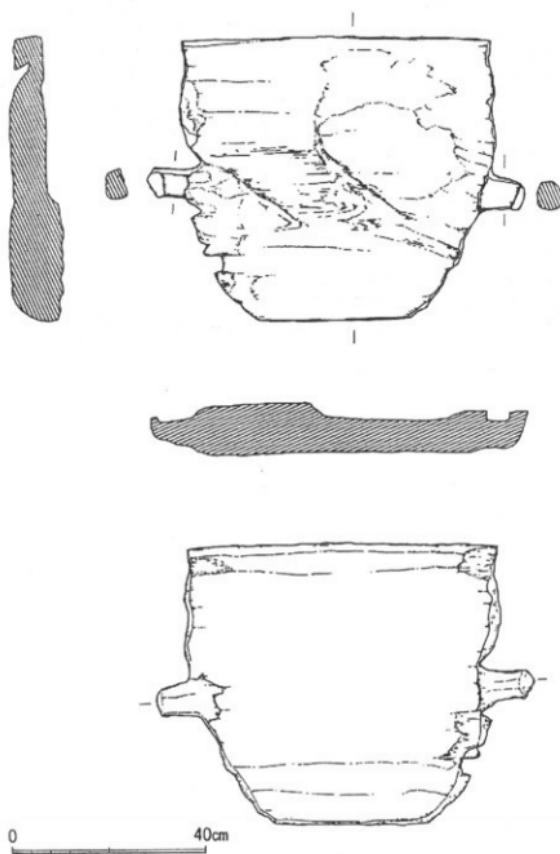
大阪府教育委員会・(財) 大阪府文化財調査研究センター 1996『河内平野遺跡群の動態Ⅲ』  
能勢町教育委員会 1996『平成7年度木野川流域遺跡群調査事業報告書』  
(財) 大阪府文化財調査研究センター 1997『田井中遺跡(1~3次)・志紀遺跡(坊1次)』  
大阪府教育委員会・(財) 大阪府文化財調査研究センター 1998『河内平野遺跡群の動態Ⅳ』  
大東市教育委員会 1998『メノコ遺跡発掘調査報告書』  
(財) 大阪市文化財協会 1999『長原遺跡発掘調査報告Ⅶ』  
大阪府教育委員会・(財) 大阪府文化財調査研究センター 1999『河内平野遺跡群の動態Ⅶ』  
東大阪市教育委員会 1999『瓜生堂遺跡第46次発掘調査中間報告書』  
東大阪市教育委員会・(財) 東大阪市文化財協会 1999『西ノ辻遺跡第17次発掘調査報告書』  
(財) 大阪府文化財調査研究センター 2000『溝咲遺跡(その1・2)』  
(財) 大阪府文化財調査研究センター 2000『溝咲遺跡(その3・4)』  
東大阪市教育委員会 2000『瓜生堂遺跡第47-1次発掘調査中間報告書』  
吹田市教育委員会 2001『高城B遺跡第2次発掘調査報告書』  
東大阪市教育委員会 2001『鬼虎川遺跡第49次発掘調査報告』  
(財) 大阪市文化財協会 2003『加美遺跡発掘調査報告Ⅱ』  
(財) 大阪府文化財センター 2003『新上小阪遺跡』  
(財) 大阪府文化財センター 2003『尺度遺跡Ⅱ』  
大東市教育委員会 2003『寺川遺跡発掘調査報告書』  
(財) 大阪府文化財センター 2004『瓜生堂遺跡Ⅰ』  
和泉市教育委員会 2004『史跡池上曾根99(第2分冊-遺物実測図編)』

遺跡名 : 達田遺跡

所在地 : 大阪府能勢町

時期 : 古墳時代～

文献 『平成 7 年度木野川流域遺跡群調査事業報告書』 能勢町教育委員会 1996



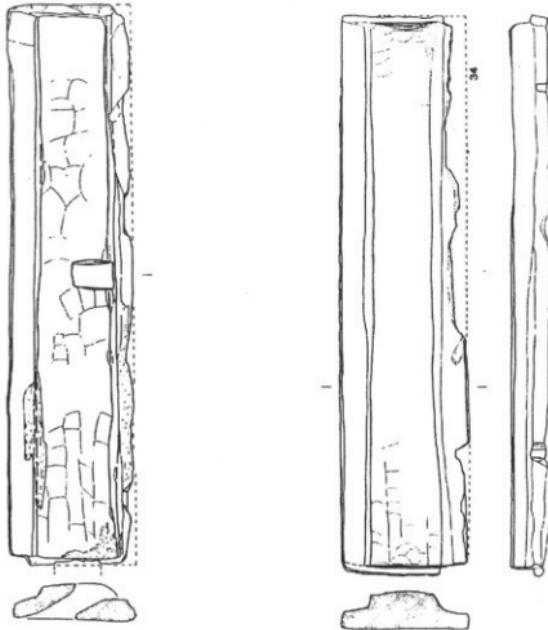
1 : 10  
樹種不明  
木取り不明

遺跡名：高城B遺跡

所在地：大阪府吹田市

時期：古墳中～後期

文献『高城B遺跡第2次発掘調査報告書』吹田市教育委員会 2001



1:10

土坑内土留め転用建築部材

樹種不明

木取り不明

遺跡名：芥川遺跡

所在地：大阪府高槻市

時期：弥生後期

文献『芥川遺跡発掘調査報告書』高槻市教育委員会 1995



1 : 10

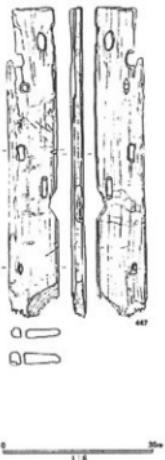
大溝内出土梯子

樹種アカガシ

木取り不明

遺跡名： 加美遺跡 所在地： 大阪府大阪市 時期： 古墳～飛鳥

文献『加美遺跡発掘調査報告Ⅱ』大阪市文化財協会 2003



1:10

ホゾ穴？を有する板状部材

樹種ヒノキ

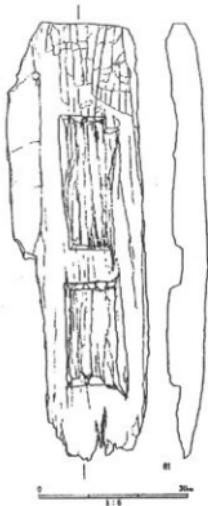
木取り不明

遺跡名：長原遺跡

所在地： 大阪府大阪市

時期：古墳～飛鳥

文献『長原遺跡発掘調査報告VII』大阪市文化財協会 1999



1 : 10

長方形の突起を作り出

す梯子状部材

樹種スギ

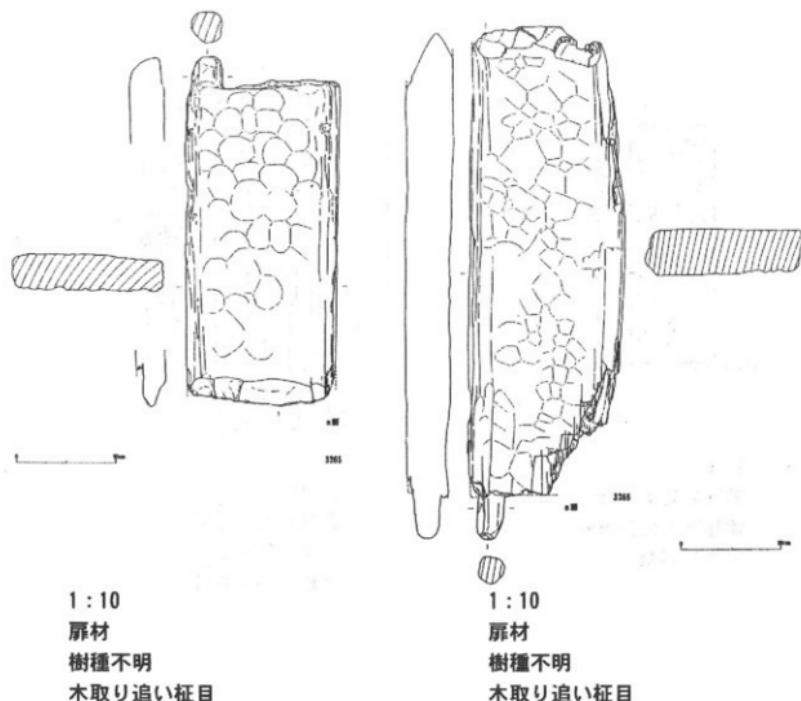
木取り不明

遺跡名 : 池上曾根遺跡

所在地 大阪府和泉市

時期 : 弥生時代中期

文献『史跡池上曾根 99 (第2分冊 - 遺物実測図編)』和泉市教育委員会 2004



1:10

扉材

樹種不明

木取り追い杼目

1:10

扉材

樹種不明

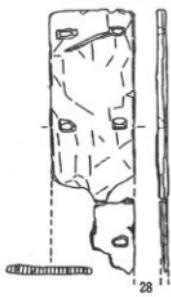
木取り追い杼目

遺跡名：瓜生堂遺跡

所在地：大阪府東大阪市

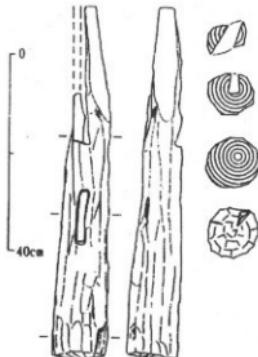
時期：弥生後期～古墳初頭

文献『瓜生堂遺跡第47-1次発掘調査中間報告書』東大阪市教育委員会 2000



1:5

貫穴を有する板材  
樹種アカガシ亞属  
木取り不明



1:10

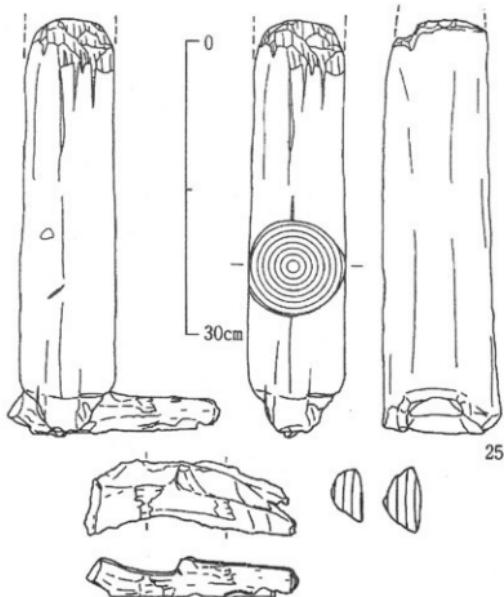
貫穴をもつ柱材  
樹種五葉マツ  
木取り心持ち材

遺跡名：瓜生堂遺跡

所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生中期

文献『瓜生堂遺跡第46次発掘調査中間報告書』東大阪市教育委員会 1999



1 : 5

A-5 ピット154柱根

抉り入り柱材

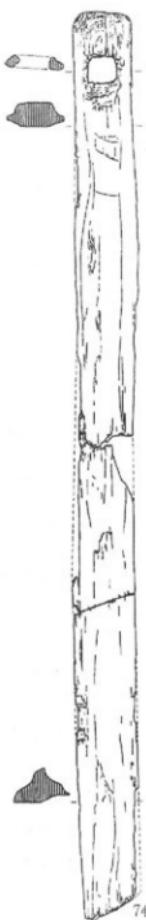
礎板心持ち材半裁

柱材サカキ

礎板スダジイ

遺跡名：鬼虎川遺跡　所在地：大阪府東大阪市　時期：弥生後期～古墳初頭

文献『鬼虎川遺跡第49次発掘調査報告』東大阪市教育委員会 2001



1 : 10

貫穴を有する部材

樹種モミ属

木取り柵目

0

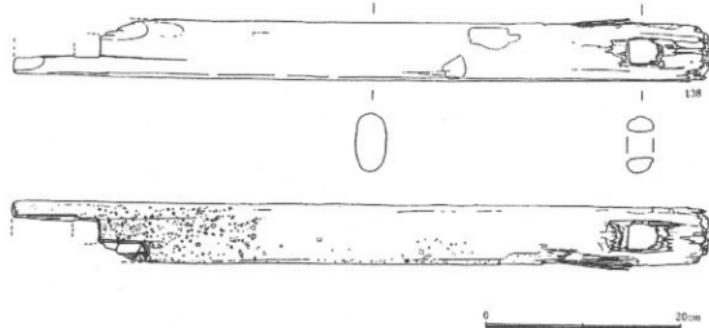
40cm

遺跡名：寺川遺跡

所在地：大阪府大東市

時期：古墳後期～奈良

文献『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 2003



第22図 A区第4遺構面S R-02出土木製品(1)

1:5

ホゾ穴を有する部材

樹種不明

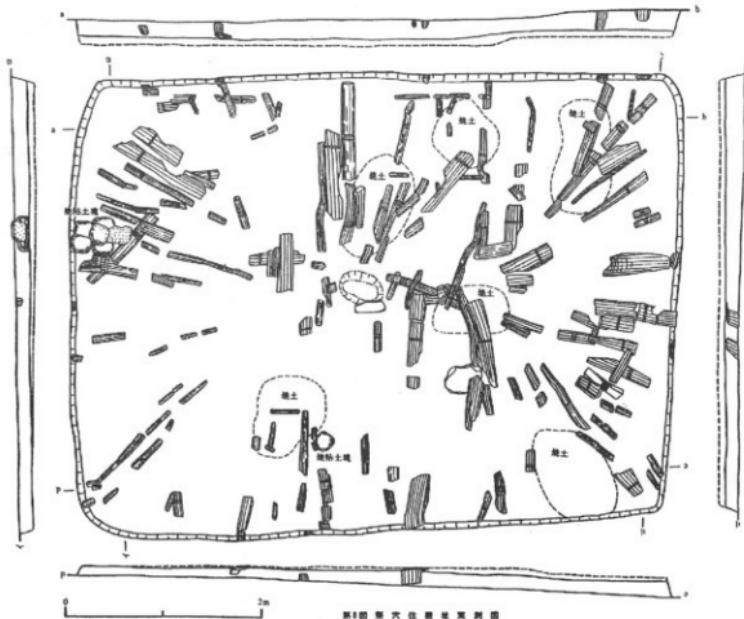
木取り不明

遺跡名：鬼塚遺跡

所在地 大阪府東大阪市

時期：弥生後期

文献『鬼塚II・若江遺跡発掘調査報告』東大阪市教育委員会 1979



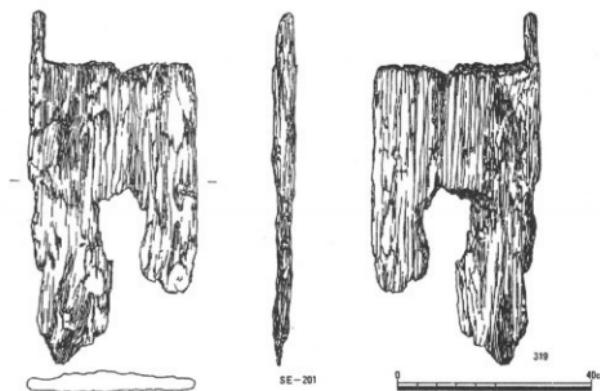
1 : 50

遺跡名：メノコ遺跡

所在地：大阪府大東市

時期：古墳中期

文献『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市教育委員会 1998

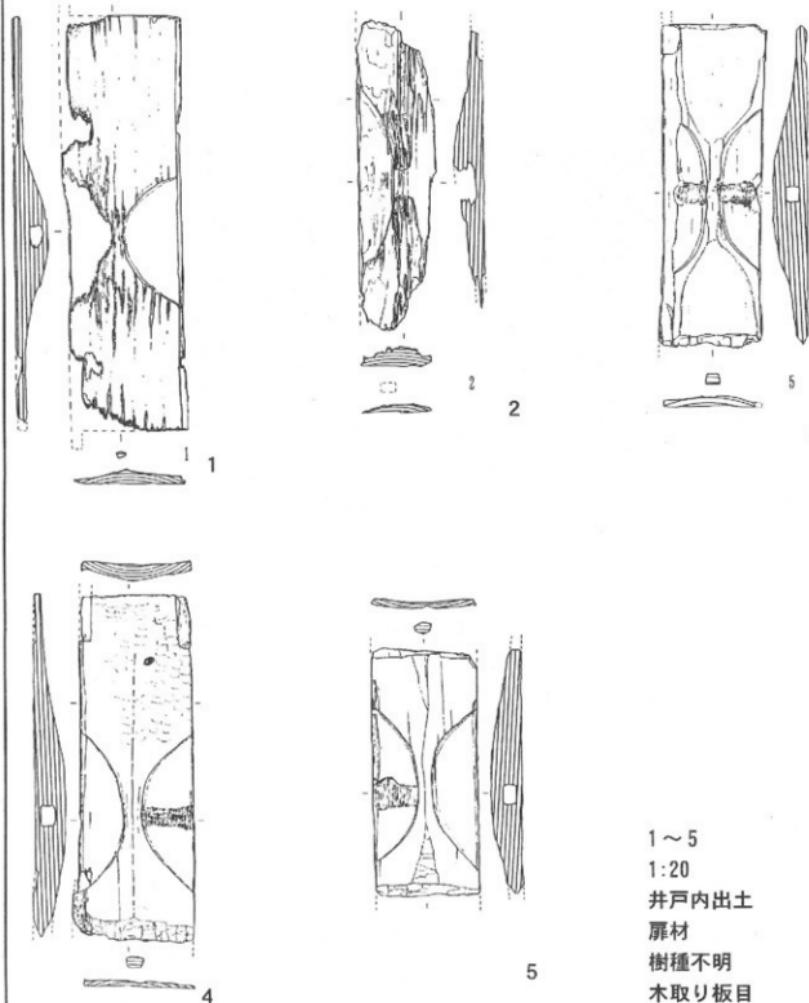


第33図 木製品実測図

1:5  
扉材  
樹種不明  
木取り不明

遺跡名：讚良郡条里遺跡 所在地 大阪府寝屋川市 時期 古墳時代～

文献『讚良郡条理遺跡発掘調査概要Ⅱ』大阪府教育委員会 1991



遺跡名：讚良郡条里遺跡 所在地 大阪府寝屋川市 時期 古墳時代～

文献『讚良郡条理遺跡発掘調査概要Ⅱ』大阪府教育委員会 1991



1:4

貫穴のある角材  
樹種不明  
木取り柾目



1:4

貫穴のある角材  
樹種不明  
木取り板目



1:4

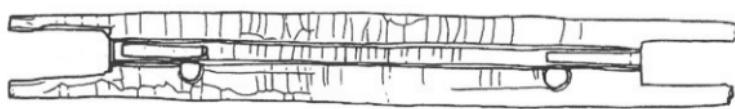
貫穴のある角材  
樹種不明  
木取り板目

遺跡名 北新町遺跡

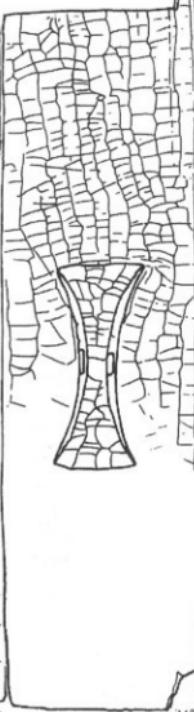
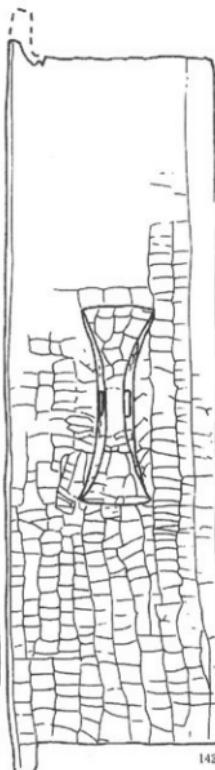
所在地 大阪府大東市

時期：古墳時代～

文献『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会 1991



141



146

143

1 : 10

木材各種構造図

樹種不明

0

1 m

遺跡名 :利倉遺跡

所在地 :大阪府豊中市

時期 :古墳前期

文献『利倉遺跡』利倉遺跡発掘調査団 1976



1 : 10

柱材

樹種不明

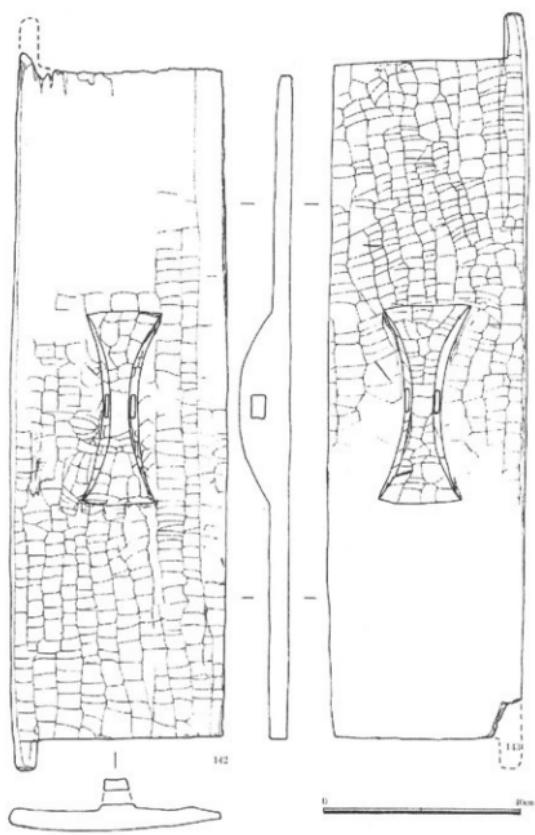
木取り心持ち材

遺跡名：北新町遺跡

所在地：大阪府大東市

時期 古墳時代～

文献『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会 1991



1:10

扉材

樹種不明

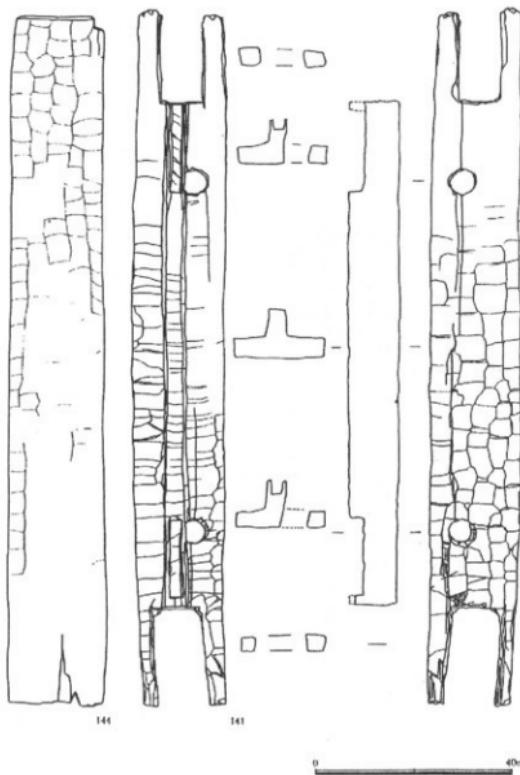
木取り不明

遺跡名：北新町遺跡

所在地：大阪府大東市

時期 古墳時代～

文献『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』大東市北新町遺跡調査会 1991



1 : 10

扉材

樹種不明

木取り不明

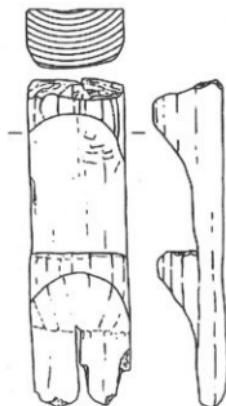
遺跡名：西ノ辻遺跡

所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生時代

文献『西ノ辻遺跡第17次発掘調査報告書』

東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会 1999



1:10

梯子

樹種不明

木取り半裁材

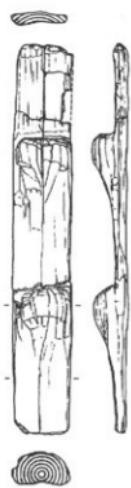
遺跡名：鬼虎川遺跡

所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生時代中期

文献『鬼虎川遺跡第19次発掘調査報告』

財団法人東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会 1988



1:10

梯子

樹種ユズリハ

木取り芯持ち材



1:10

貫穴をもつ板材

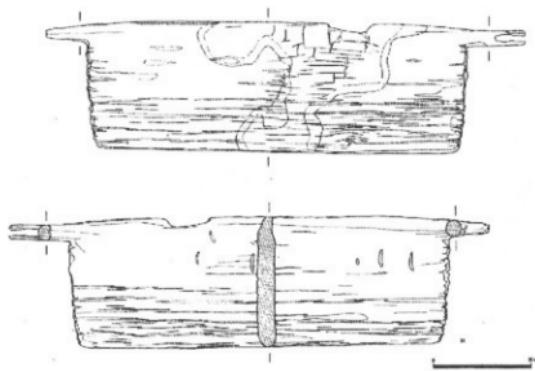
樹種不明

木取り板目

遺跡名：八尾南遺跡 所在地：大阪府八尾市 時期：古墳中期

文献「VI八尾南遺跡(第7次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ』

財団法人八尾市文化財調査研究会 1993



1:10

壙より出土

屏材

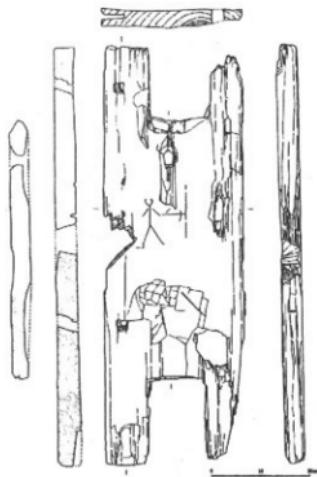
樹種不明

木取り不明

遺跡名 :陶邑・大庭寺遺跡 所在地 : 大阪府堺市

時期 :古墳後期

文献『陶邑・大庭寺遺跡』大阪府教育委員会・財団法人大阪府埋蔵文化財協会 1989



1:10

ホゾ穴を有する建築部材

\*中央に人物（？）線刻有り

樹種不明

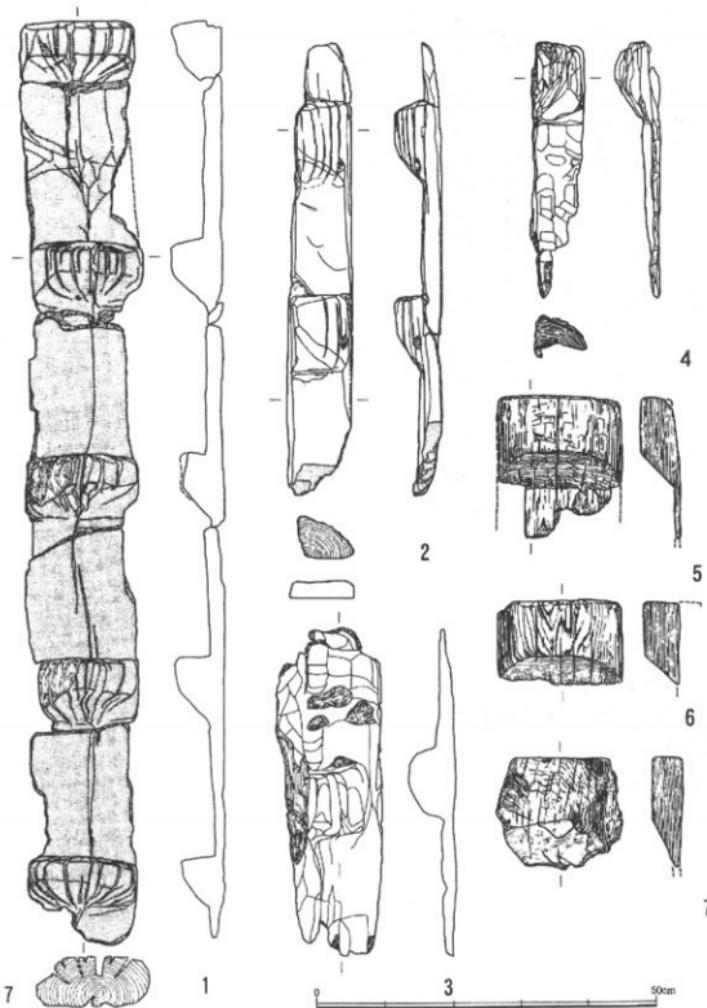
木取り板目

遺跡名：下田遺跡

所在地：大阪府堺市

時期：古墳前期

文献『下田遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター 1996



1~7

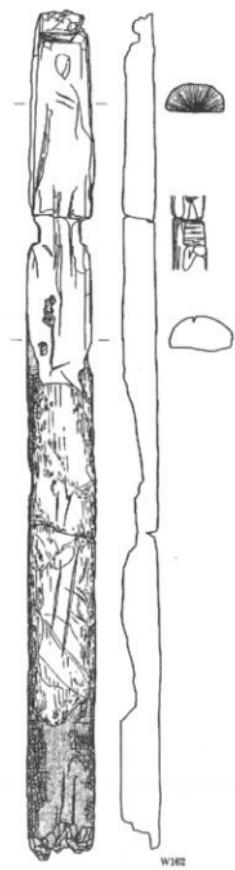
1:5

梯子 樹種不明

遺跡名 下田遺跡

所在地 大阪府堺市下田町 時期： 古墳前期

文献『下田遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター 1996

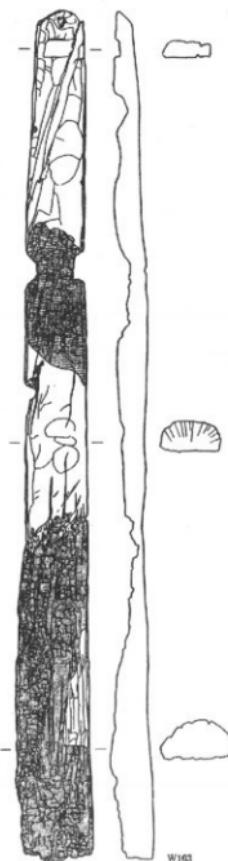


1 : 10

欠込みを持つ部材

樹種不明

木取り半裁材



1 : 10

欠込みを持つ部材

樹種不明

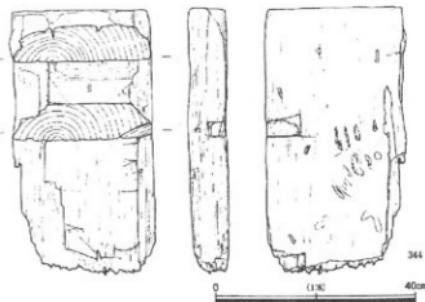
木取り半裁材

遺跡名 : 新上小阪遺跡

所在地 大阪府東大阪市

時期 : 奈良～平安

文献『新上小阪遺跡』(財) 大阪府文化財センター



1 : 10

中央部端に別木を継ぐ板状部材

樹種スギ

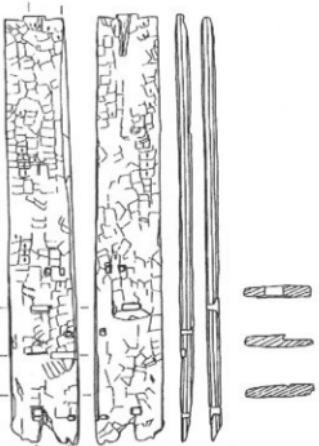
心持ち柾目

遺跡名 : 尺度遺跡

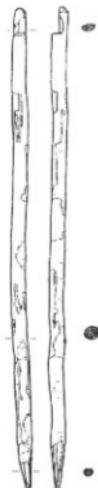
所在地 : 大阪府羽曳野市

時期 : 弥生末～古墳初頭

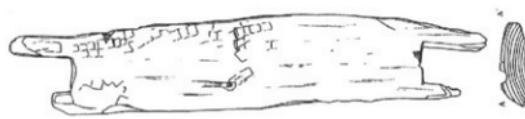
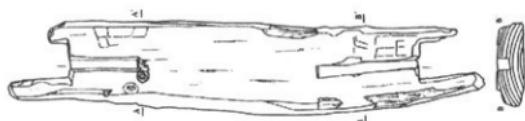
文献『尺度遺跡 II』(財)大阪府文化財センター 2003



ホゾ穴を有する扉構造材  
樹種ケンボナシ属に類似



垂木材?  
樹種ツブラジイ  
木取り心持ち



ホゾを有する扉構造材  
樹種ツブラジイ

1 : 20

遺跡名 :溝呂遺跡

所在地： 大阪府茨木市

時期： 古墳中期

文献『溝呂遺跡(その1・2)』(財)大阪府文化財調査研究センター 2000

『溝呂遺跡(その3・4)』(財)大阪府文化財調査研究センター 2000



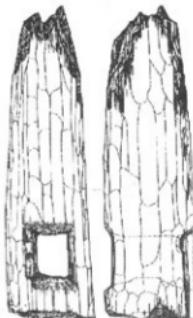
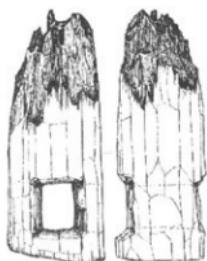
1:10

ホゾを有する部材  
(棟当と推測)  
樹種不明

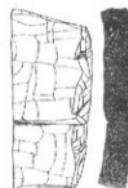
1:20

梯子材  
樹種不明

1:10



ヒノキ



貫孔を有する柱材とほぞ穴を有する礎板

1:10

遺跡名 田井中遺跡

所在地 大阪府八尾市

時期：古墳中期

文献『田井中遺跡（1～3次）・志紀遺跡（防1次）』

（財）大阪府文化財調査研究センター 1997



欠込みを持つ部材  
樹種ヒノキ



欠込みを持つ部材  
樹種ヒノキ



欠込みを持つ部材  
樹種ヒノキ



貫穴・欠込みを持つ板材  
樹種モミ

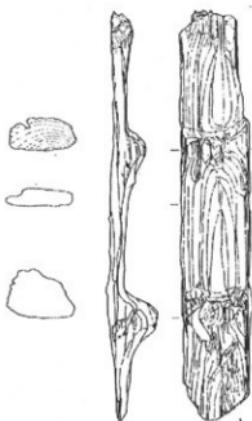
遺跡名：巨摩遺跡

所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生中期

文献『河内平野遺跡群の動態Ⅲ』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1996



1 : 10

梯子

樹種モミ

木取り板目

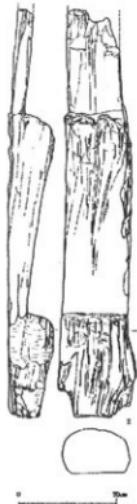
遺跡名 :若江北遺跡

所在地 :大阪府東大阪市

時期 : 弥生中期

文献『河内平野遺跡群の動態III』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1996



1:10

梯子

樹種タブノキ

木取り芯持ち半裁材

遺跡名：新家遺跡

所在地： 大阪府東大阪市 時期： 弥生後期

文献『河内平野遺跡群の動態IV』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1998



1 : 10

扉板(方形板)

樹種不明

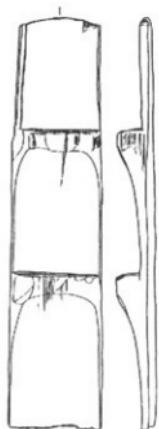


0 30cm

1 : 10

ホゾ穴を持つ板材

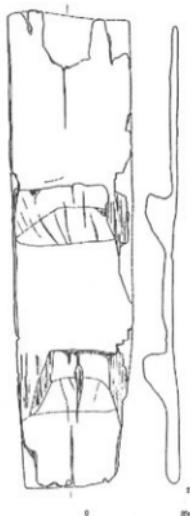
樹種不明



1 : 10

梯子

樹種不明



1 : 10

梯子

樹種不明

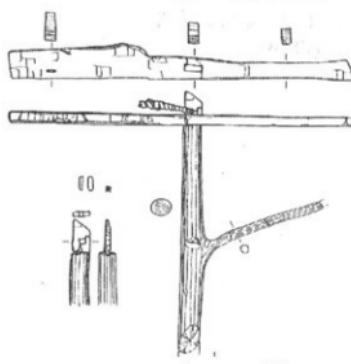
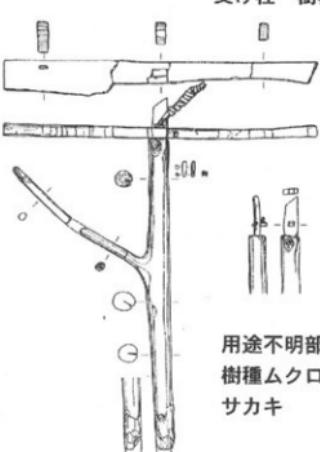
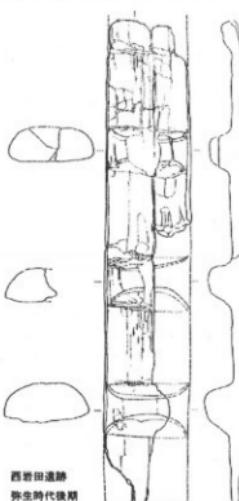
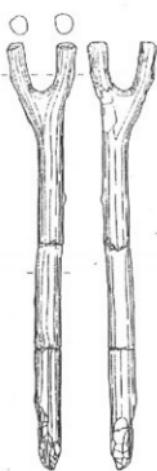
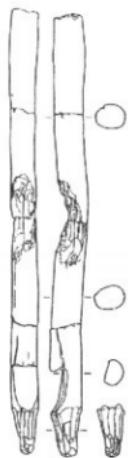
遺跡名：西岩田遺跡

所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生後期

文献『河内平野遺跡群の動態IV』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1998

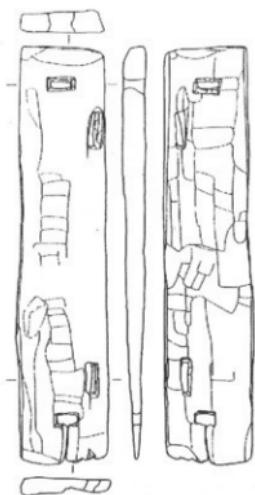


1:10

遺跡名：西岩田遺跡 所在地：大阪府東大阪市 時期：古墳前期

文献『河内平野遺跡群の動態IV』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1998



1 : 10

ホゾ穴を持つ板材

樹種モミ

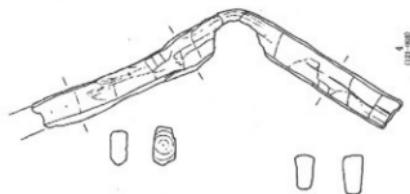
遺跡名：亀井遺跡

所在地 大阪府八尾市・大阪市

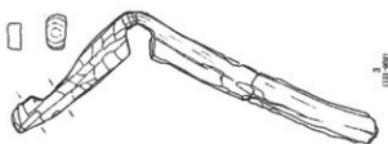
時期：弥生中期

文献『河内平野遺跡群の動態VI』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1993



1:5  
抉り入り部材  
架構材?  
樹種ヤマグワ



1:5  
抉り入り部材  
架構材?  
樹種コナラ亜属

遺跡名：久宝寺遺跡

所在地：大阪府東大阪市・八尾市

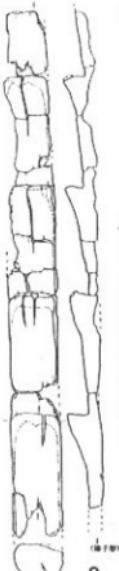
時期：弥生末～古墳

文献『河内平野遺跡群の動態VII』

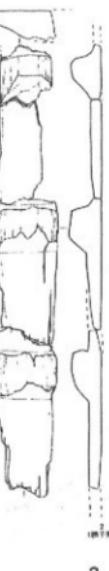
大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1999



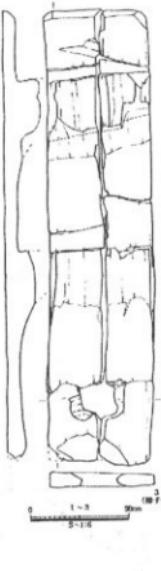
1  
1:10  
梯子  
樹種アカガ  
シ亞属



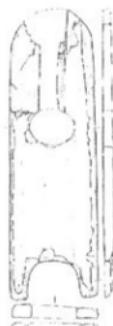
2  
1:10  
梯子  
樹種不明



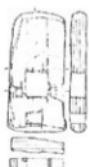
3  
1:10  
梯子  
樹種不明



4  
1:10  
梯子  
樹種不明



5  
1:10  
部材  
スギ



6  
1:10  
ホゾ穴を持つ板材  
アカガシ亞属

遺跡名：亀井遺跡

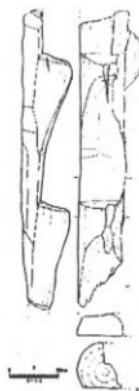
所在地：大阪府八尾市・大阪市 時期：弥生後期

文献 『河内平野遺跡群の動態VII』

大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1999



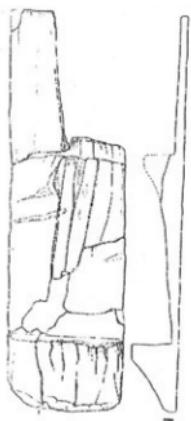
1:10  
抉入り柱材  
樹種不明



1:10  
梯子  
樹種不明

遺跡名：瓜生堂遺跡 所在地：大阪府東大阪市 時期：弥生後期

文献『瓜生堂遺跡 1』(財) 大阪府文化財センター 2004



1:10  
梯子  
樹種不明

遺跡名：豊中遺跡

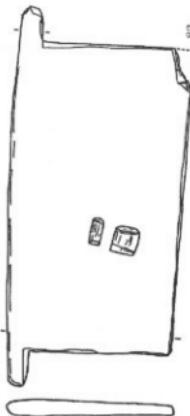
所在地：大阪府泉大津市

時期： 古墳中期

文献『豊中・古池遺跡発掘調査概報そのIII』豊中・古池遺跡遺跡調査会 1976



1 : 10  
扉材  
樹種不明



1 : 10  
扉材  
樹種不明



1 : 10  
扉材  
樹種不明



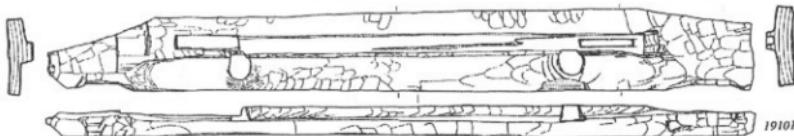
1 : 10  
扉材  
樹種不明

遺跡名：長原遺跡

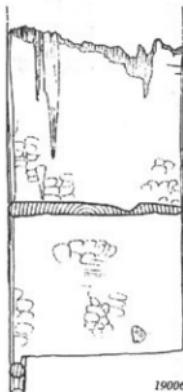
所在地：大阪府大阪市

時期：古墳中期

文献『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所 1993



1:10  
屏材



1:10  
屏材

遺跡名：陵南北遺跡

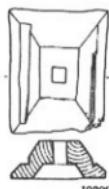
所在地：大阪府堺市

時期：古墳中期

文献 『木器集成図録 近畿原始編』 奈良国立文化財研究所 1993



19204



19209

1 : 10  
鼠返し？

1 : 10  
鼠返し？



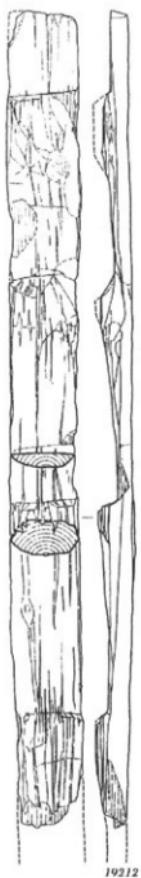
1 : 10  
鼠返し？

遺跡名：小阪遺跡

所在地：大阪府堺市

時期：古墳中期～古墳後期

文献『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所 1993



1 : 10  
梯子

19212

遺跡名 亀井遺跡

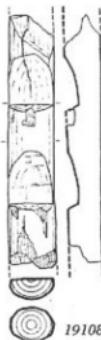
所在地：大阪府東大阪市

時期：弥生中期

文献『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所 1993



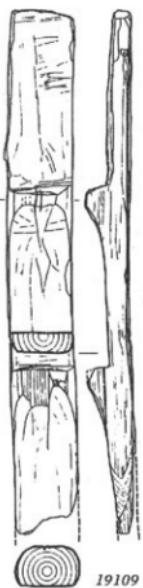
1:10  
鼠返し？



1:10  
梯子

遺跡名：東奈良遺跡　所在地：大阪府茨木市　時期：弥生後期

文献『木器集成図録　近畿原始編』奈良国立文化財研究所 1993



1 : 10  
梯子

19109

## 兵庫県の概要

中村 弘

兵庫県における縄文時代から古墳時代の木質資料は、丹波（兵庫県側）などの内陸部で少ないものの、北部の日本海側ではスギ地帯であることや、地理的に低地が多く段丘が未発達であることから、資料的に恵まれた状況にある。また、南部では神戸市西区玉津田中遺跡を中心に弥生時代の資料がまとまって出土している。

建築材は組まれた状態ではなく、部材での出土がほとんどであるため、不明な点が多い。唯一、玉津田中遺跡から弥生時代中期の資料で組まれたものがあるが、建築材かどうかは明らかでない。

以下、時代ごとに概観する。

縄文時代の資料については兵庫県下では皆無で、建築材以外の木質資料が散在するに過ぎない。

弥生時代では、玉津田中遺跡において中期のまとまった木質資料がみられる。当遺跡では、「共同体内外業」により木製品を生産していたと考えられており、中期において連続製作技法が認められる未製品が出土しているが、建築材は少ない。旧河道からの出土で、6371は円形の穿孔があり、アカガシ亜属、6373は方形の穿孔があるほどで、ヒノキである。6480～6482は組み合わされた材で、窓になるかと思われるが、6480・6481の材同士を離ぐ装置ではなく、縛り付けられたものであると考えられる。6482はほどにより組まれている。

弥生時代中期後葉から古墳時代初頭にかけては、篠山市上板井遺跡に例があり、栓(35)が出土している。樹種はスギである。

弥生時代後期から古墳時代中期にかけての資料に入佐川遺跡がある。入佐川遺跡では、両側面に切り込みのある角材(171)、片側面に切り込みのある角材(180)、方形の穿孔がある断面扁形の材(172)、方形の穿孔のあるほどをもつ板材(173)、蹴放し（またはまぐさ）(175)、垂木(181)、両端に方形の穿孔があり、片面に鋭利な刃物による痕跡がある板材(183)がある。樹種はいずれもスギである。

古墳時代初頭の資料は姫路市長越遺跡に例があり、不明の部材が出土している。54は方形の穿孔と、直交する方向の切り込みが表裏共に認められる。88は中央と片端に方形の穿孔が認められ、反対側の端に切り欠きにより段ができている。54はエノキ、88はカシである。

古墳時代の資料は比較的豊富にある。瀬戸内側の玉津田中遺跡において、方形の穿孔が交互に開けられた材(2081)、方形の穿孔があり凹形断面の材(2082)、が出土している。樹種は前者がクヌギ節、後者がモミである。

日本海側の資料には袴狭遺跡と五反田遺跡がある。袴狭遺跡からは、蹴放し(1237)、方形の穿孔と、斜め方向の穿孔のある板材(1456)、垂木と思われる材(1488・1886)、方形穿孔のあるちきり離ぎの材(1874)、一方に切り欠きのある材(1884)、両端が有頭で、一方に切り欠きのある棒(1885)が出土している。

五反田遺跡は古墳時代中期の遺物と共に木製品が出土している。片端に凹字形の切り込みをもつ材(54)、両端に凹字形の切り込みをもつ材(166)、片端に切り込みをもつ材(55・275)、断面三角形のほどをもつ材(56)、方形の穿孔をもつ材(57・64・67・294・295)、両端に方形の穿孔をもつ材(60・296)、片端に窪みがあり、そこに方形の穿孔をもつ材(61)、幅広い台形状の切り込みをもつ板材の両端に溝を彫り、そこに長方形の穿孔をもつ材(124)、板材に平行する方向に溝を彫り、そこに長方形の穿孔をもつ材(297)、方形の穿孔と半円形の切り込みのある材(65)、T字形の断面の材に、横方向からの方形の穿孔をもつ材(126)、材の中央部に方形の切り込みをもつ材(255)、また、66のような方形の穿孔や271のような切り込みのあるものもある。他に、板壁を受

けるような形状の材(259)、垂木(273)がある。樹種は、同定していない 271・275 以外は全てスギである。

同じく古墳時代中期の資料として淡路島の洲本市に所在する雨流遺跡がある。片側に切り欠きが認められる材(1304)と、断面が丁字形で方形の穿孔をもつ材(1305)があり、いずれも樹種は二葉マツである。

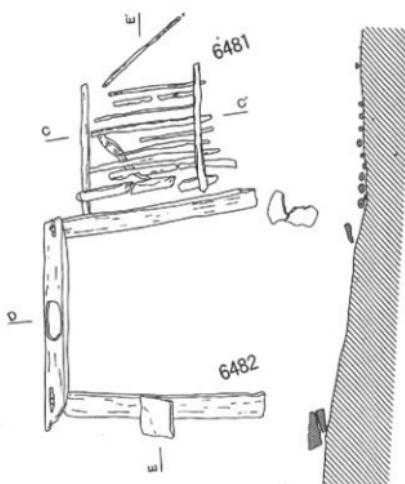
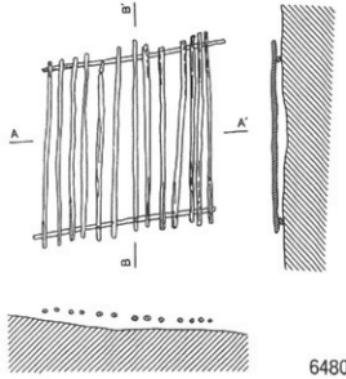
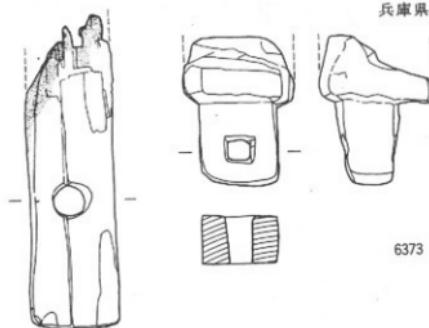
以上が、兵庫県における縄文時代から古墳時代の組合せ加工をもつ建築材である。しかし、筆者の力量不足で、建築材の認識が不明確であり、既存資料が十分に生かし切れていない。ご容赦を願う。

#### 文献一覧

1. 兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡』第2分冊 1994年
2. 兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡』第5分冊 1996年
3. 兵庫県教育委員会『上板井遺跡』1990年
4. 兵庫県教育委員会『入佐川遺跡』2002年
5. 兵庫県教育委員会『播磨・長越遺跡』1978年
6. 兵庫県教育委員会『袴狹遺跡』2000年
7. 兵庫県教育委員会『五反田遺跡』2002年
8. 兵庫県教育委員会『雨流遺跡』1990年

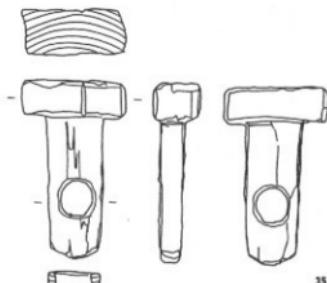
遺跡名：玉津田中遺跡　所在地：兵庫県神戸市西区　弥生時代中期

兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡』第5分冊 1996年



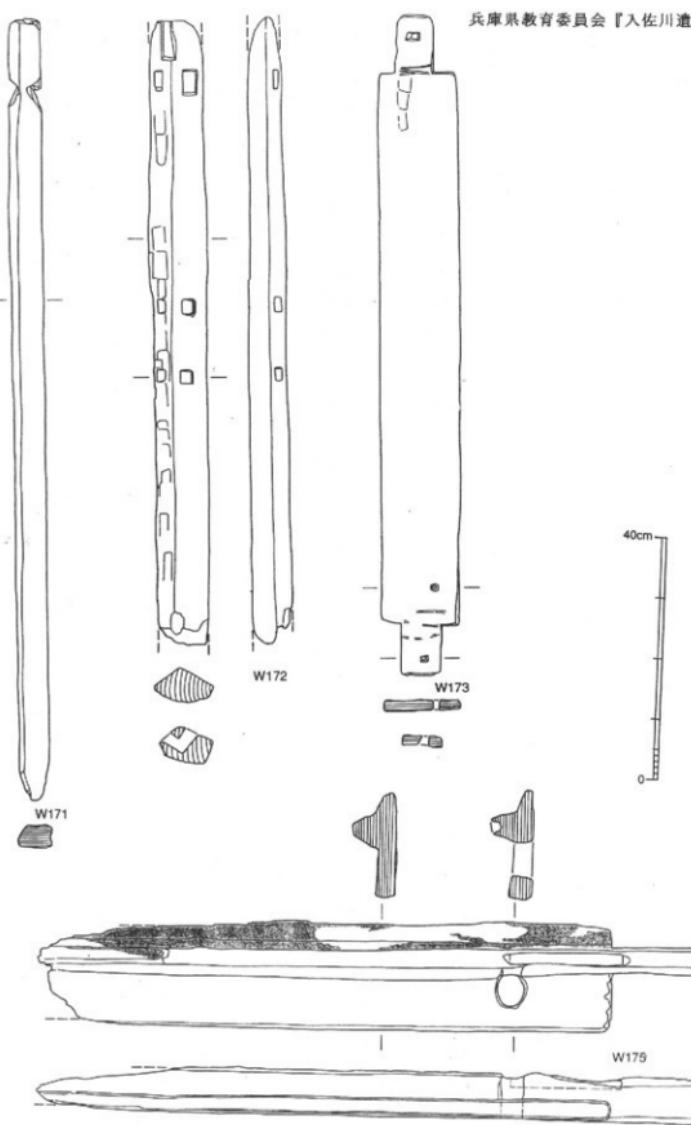
遺跡名：上板井遺跡 所在地：兵庫県篠山市 弥生時代中期～古墳時代初頭

兵庫県教育委員会『上板井遺跡』1990年

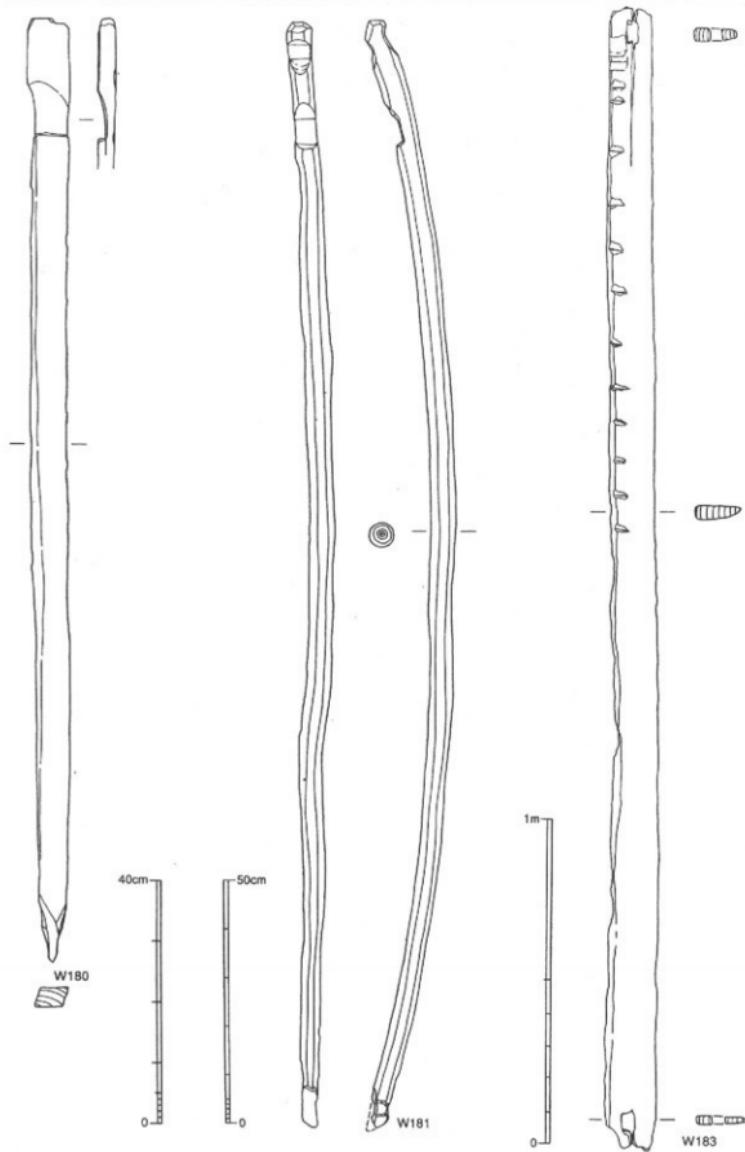


遺跡名：入佐川遺跡　所在地：兵庫県出石郡出石町　弥生時代後期～古墳時代中期

兵庫県教育委員会『入佐川遺跡』2002年

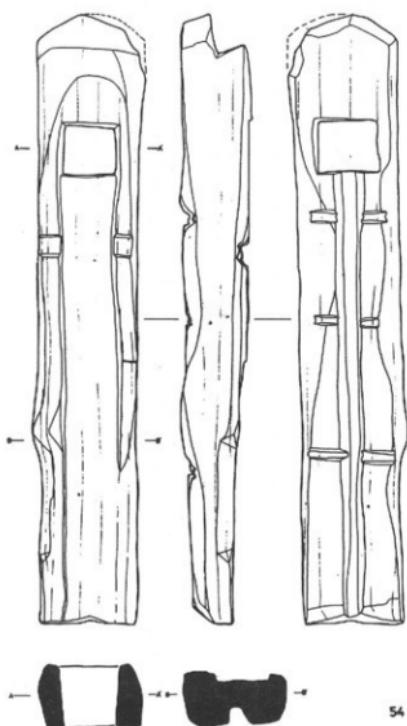


遺跡名：入佐川遺跡　所在地：兵庫県出石郡出石町　弥生時代後期～古墳時代中期

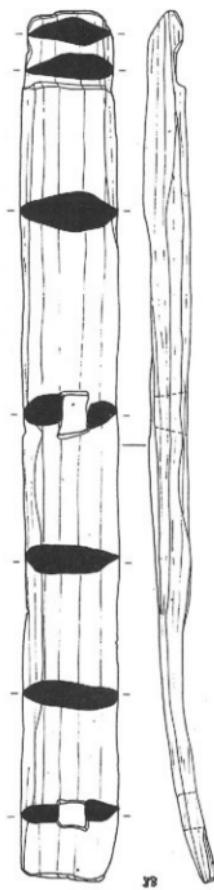


遺跡名：長越遺跡　所在地：兵庫県姫路市　古墳時代初頭

兵庫県教育委員会『播磨・長越遺跡』1978年

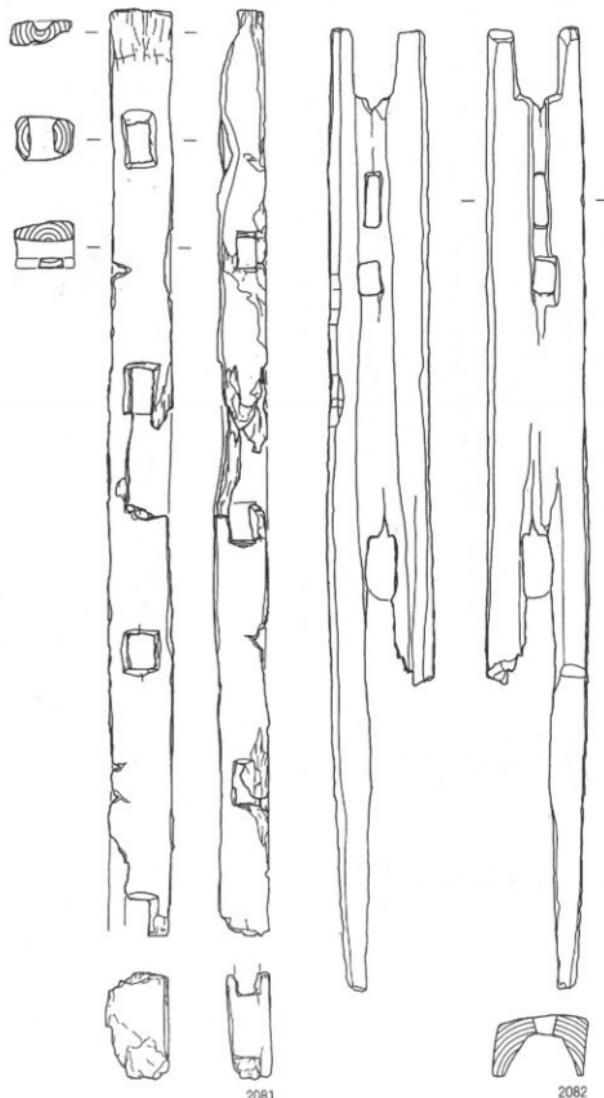


0 10 20cm



遺跡名：玉津田中遺跡　所在地：兵庫県神戸市西区　古墳時代

兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡』第2分冊 1994年



2081

2082

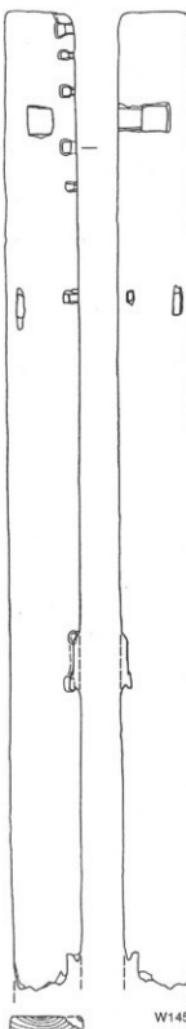


遺跡名：袴狭遺跡 所在地：兵庫県出石郡出石町 古墳時代

兵庫県教育委員会『袴狭遺跡』2000年



W1237



W1456



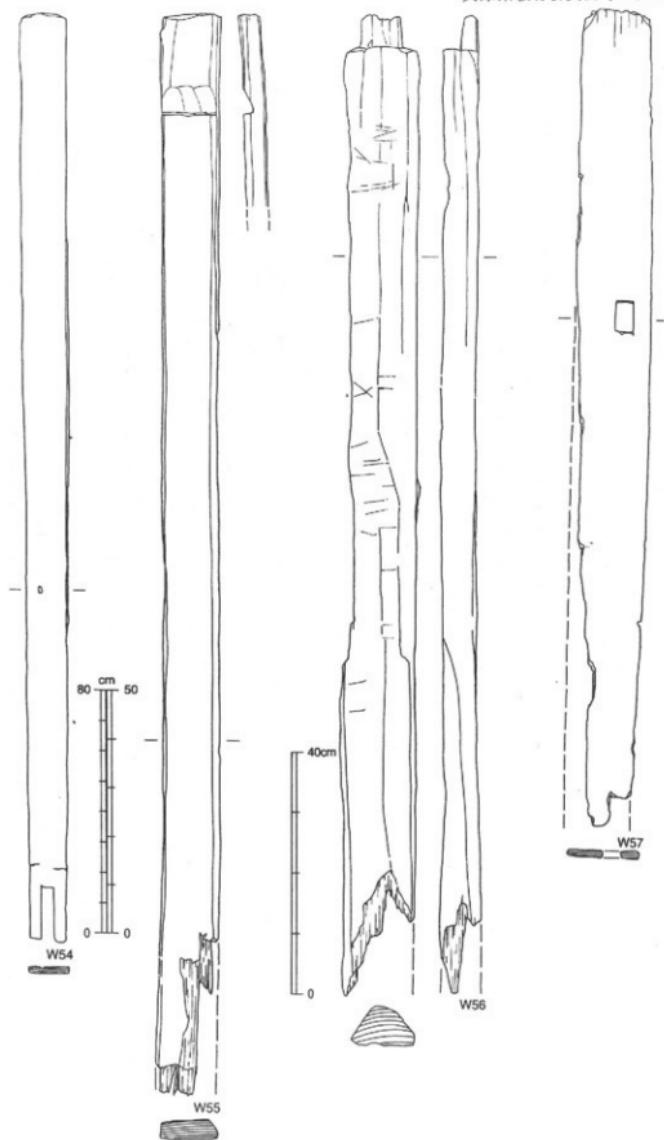
W1488

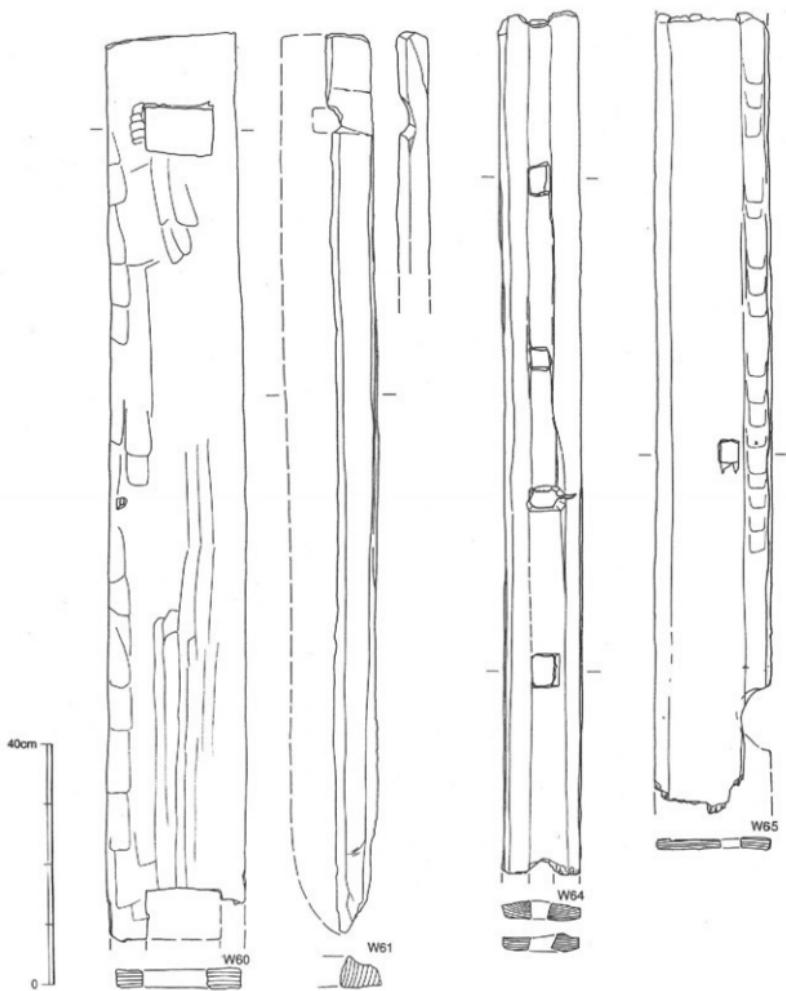
遺跡名：袴狭遺跡　所在地：兵庫県出石郡出石町　古墳時代



遺跡名：五反田遺跡　所在地：兵庫県豊岡市　古墳時代中期

兵庫県教育委員会『五反田遺跡』2002年

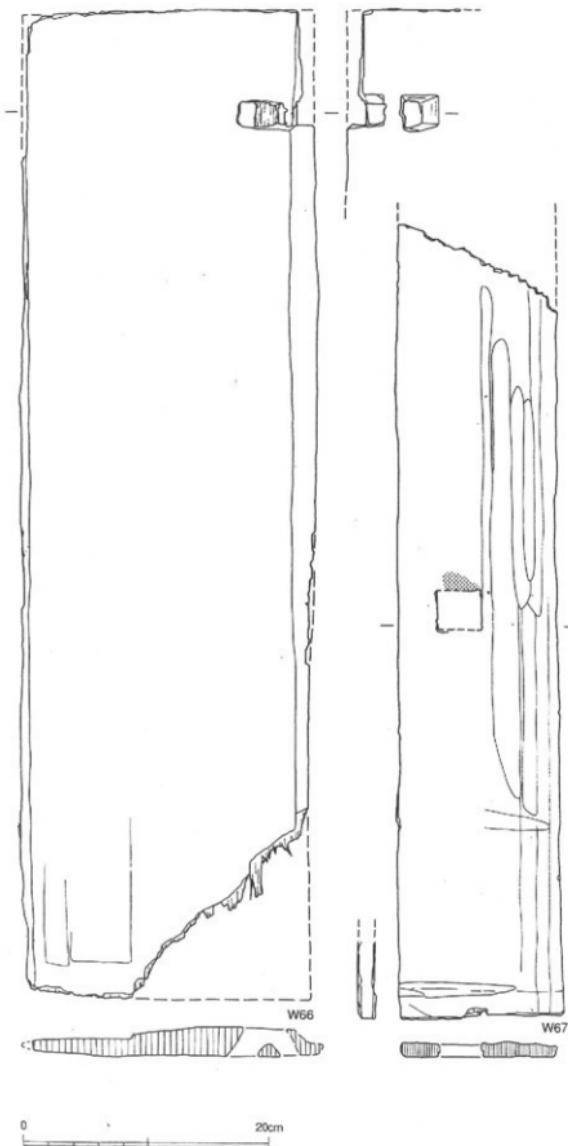




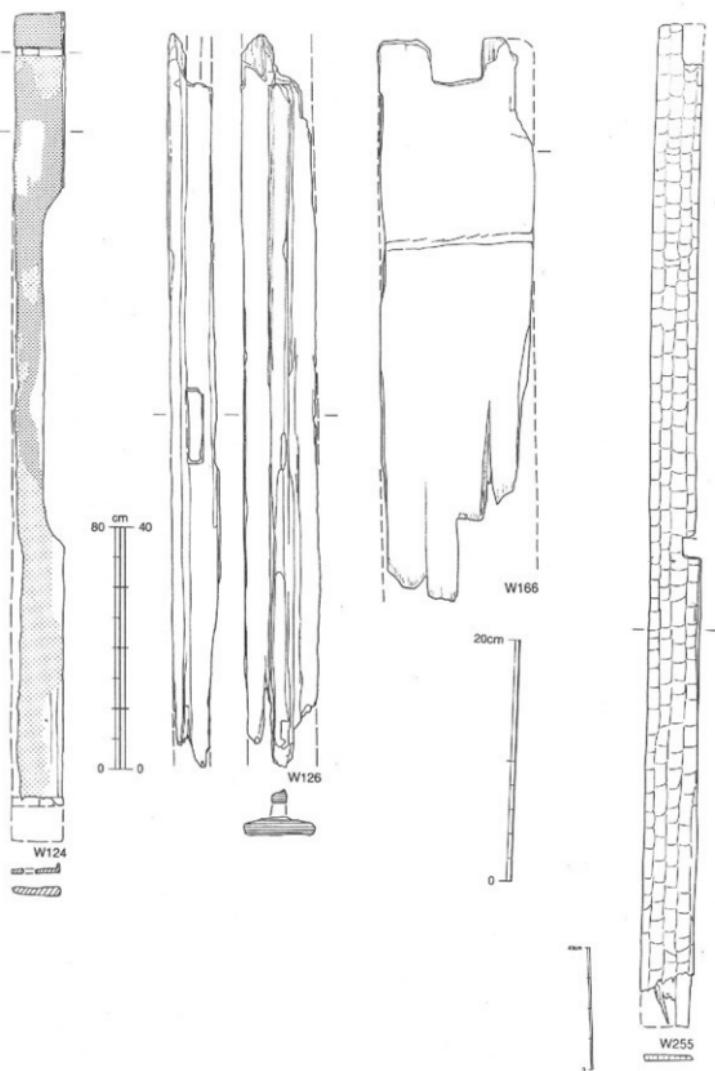
遺跡名：五反田遺跡

所在地：兵庫県豊岡市

古墳時代中期



遺跡名：五反田遺跡　所在地：兵庫県豊岡市　古墳時代中期



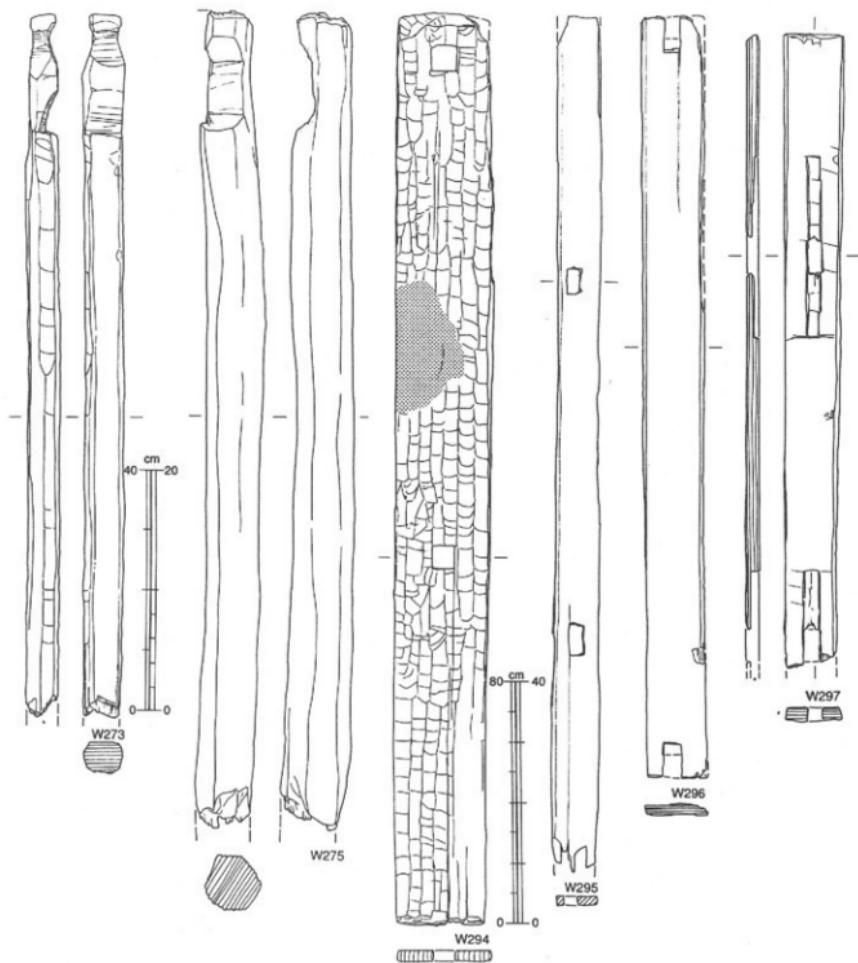
遺跡名：五反田遺跡

所在地：兵庫県豊岡市

古墳時代中期

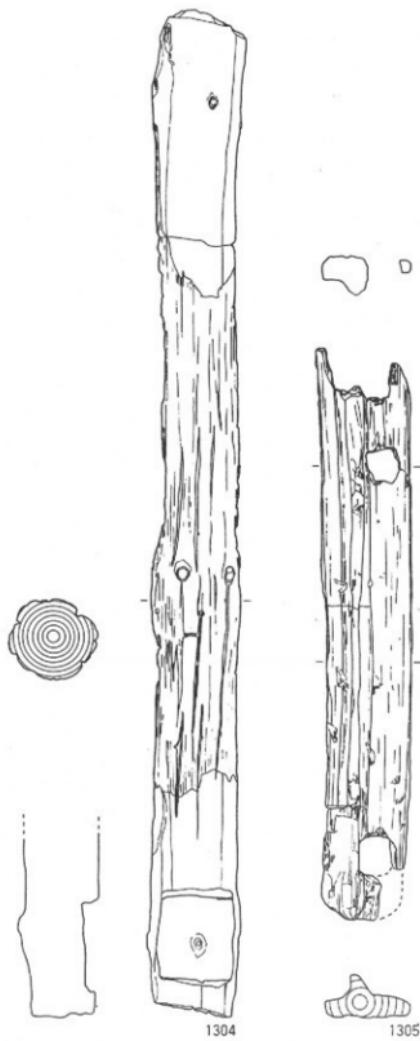


遺跡名：五反田遺跡　所在地：兵庫県豊岡市　古墳時代中期



遺跡名：雨流遺跡　所在地：兵庫県三原郡西淡町　古墳時代中期

兵庫県教育委員会『雨流遺跡』1990年



0 60.cm

## 奈良県の概要

鈴木裕明

縄文時代において木製品が出土した遺跡は、晩期の櫛原遺跡をはじめとして複数確認できるが、建築部材とみられるものの報告例は管見にのぼらない。後晩期の本郷大田下遺跡ではドングリ貯蔵穴の蓋材として丸木材、半割材、板材、角材、棒材が用いられていたが、仕口を造り出した材はみられない。

弥生時代になると木製品の出土例は増加するが、建築部材に関しては資料として提示できるものは多くない。前期の可能性のあるものとして、丸太材をV字状に切欠いて足掛け部を造り出した梯子が、佐々木塚古墳下層遺跡から出土している。前期末から中期初頭には、円形の板材の中央に周開をかり、円孔が穿たれたねずみ返しの可能性のあるものが、芝遺跡から出土している。ただし径が小さく、別の機能も考えられる。後期になると、建築部材の可能性があるものの類例が増す。ほぞを活用した材や欠込みがある材、縄掛け溝がある材が確認され、先端を杭状にする材や大型の板材も確認される。このうち東安堵遺跡の端部に欠込のある材は垂木の可能性があり、同様の加工がされた藤原宮下層遺跡例は、横架材の可能性がある。保津・宮古遺跡の縄掛け溝と欠込がある先端を杭状にした材は、しがらみの用材である。保津・宮古遺跡例は心取り材が用いられている。同じものが藤原宮下層遺跡からも出土している。ほぞ穴をもつ大型の板材は唐古・鍵遺跡や高塚遺跡にみられる。また一木から足掛け部が造り出された梯子は、能峰遺跡中島地区に出土例があり後期段階には確実に存在している。なお、近年の唐古・鍵遺跡の調査では中期初頭の独立棟持柱をもつ總柱式の大型掘立柱建物と中期中頃の總柱式の大型掘立柱建物が確認されている。前者では直径60cmの柱根が残存し、棟持柱はヤマグワ材、他はケヤキ材が使用され、後者でも直径60cm前後及び最大のもので直径85cmのケヤキ材を使用した柱根が確認されている。少なくともこの段階には、上記にあげた以上の仕口や継手が造り出された材が存在したことは確実である。

古墳時代になると、仕口を造り出した材は前段階に比べ急増する。建築部材が多数出土している遺跡としては、前期の纏向遺跡、城島遺跡、平城宮下層遺跡、戸石・辰巳前遺跡、前期から中期にかけての谷遺跡、中期の南郷大東遺跡、中期から後期にかけての和邇・森本遺跡、後期の布留遺跡などがあげられ、また前期の纏向石塚古墳、後期の星塚1・2号墳、御墓山古墳、勝山東古墳のように古墳周濠から出土する例もある。仕口に関してても量的に最も多い欠込・ほぞをはじめとして、前段階には未確認あるいは数量的に少なかった貫穴、渡りあご、板接、溝、蟻ほぞ、括れなど、種類を増している。

前期には貫穴のある柱材や壁板を落し込むためとみられる縦溝がある柱材が纏向遺跡から出土しており、これらの中には溝の護岸の矢板列に使用されたものがある。同様に貫穴のある材としては、それが一定間隔で設けられた柱材が谷遺跡から出土している。谷遺跡例は丸太材である。柱材としては他に柱頭がコの字形に欠込まれたものと二股に枝分かれした材が確認できる。前者は掘立柱建物の柱とみられ、纏向遺跡と平城宮下層遺跡から出土しており、後者は豎穴住居用の柱とみられ、平城宮下層遺跡から出土している。平城宮下層遺跡の2例はともに丸太材である。また纏向遺跡では、半円形に切り落とされた部位がある板材や両端を斜めに削り、小口の厚みを減じた板材が出土している。前者は柱にあたる部分がそのように処置された水平構造材の可能性が考えられ、後者は柱に設けた縦溝に落し込むための処置で壁板の可能性が考えられる。前者と同様の例は戸石・辰巳前遺跡から出土している。端部をL字状に切欠いたあるいは欠込のある横架材とみられるものも纏向遺跡と戸石・辰巳前遺跡から出土している。戸石・辰巳前遺跡例は半裁削り出し材である。一定間隔でほぞ穴の穿たれる板材の出土例も比較的多く、纏向遺跡、平城宮下層遺跡、城島遺跡、西坊城遺跡、谷遺跡にみられる。これらは水平構造材の可能性が考えられ、そのなかに別に円形孔が穿たれているものもあり、扉関係材の可能性もある。谷遺跡例は壁受け材になる可能性がある。板接ぎのある材としては、平城宮下層遺跡から三枚の板を横につないだ妻覆いとみられる板材

が出土している。また同遺跡では板接ぎのための小孔のある板材や縦矧ぎの板接ぎのために側面に溝と目釘穴のある板材も出土している。これらは壁板の可能性が考えられ、いずれも柾目材である。同様の例は戸石・辰巳前遺跡にある。前段階からみられた端部に欠込のある垂木と考えられる材は、戸石・辰巳前遺跡、平城宮下層遺跡、城島遺跡にあり、同じく前段階からみられた端部に繩掛け溝と欠込がある材は戸石・辰巳前遺跡や谷遺跡から出土している。このような丸木材を用いたものには、心持ち材、心去り材がともにみられる。類例の少ない蟻ほぞを造り出した環状の材も縫向遺跡から出土している。和歌山県鳴神Ⅱ遺跡から出土している屋根形木製品とよばれるものに同様のものが付属している。一木から足掛け部が造り出された梯子は、縫向遺跡、城島遺跡、平城宮下層遺跡、戸石・辰巳前遺跡にあり、この段階から出土例が増える。木取りは、心持ち削り出し材、半裁削り出し材、板目材など様々である。また、平城宮下層遺跡では類例の少ない2本の支柱に横木を渡す組梯子が出土している。このほか、渡りあごのある横架材とみられるもの、横断面三角形で斜め方向に抜ける方形孔が一定間隔で穿たれた棟押の可能性がある材、端部に一回り径の大きい部位を造り出す柱材がそれぞれ谷遺跡から出土している。また谷遺跡では扉口装置となる、垂直に立ちあがる突起と突起に彫り込まれた溝と軸孔と切欠きのある口材、両端にコの字形の切欠き、その中央からのびる溝と軸孔がある蹴放し材、側面に方形の貫通孔と端部に溝がある扉把手などが出土している。

中期において特筆されるのは、南郷大東遺跡の導水施設で、木樋の覆屋の柱材、壁材、屋根材、垣根などが一括検出されている。うち、柱材は端部を杭状にし、軸線上の2方向に壁板落としこみ用の縦溝があるものと、隅柱としての直交する2方向に壁板落としこみ用の縦溝がある材が存在する。棟持柱に相当する柱材にはこのような縦溝はない。これらの木取りには心持ち削り出し材、半裁削り出し材、割材削り出し材などがみられる。これらに伴う壁板は小口端部を斜めに切り落とした板材で、扉構えを設置した可能性がある幅広の割り込みがある板材もある。屋根材では細い枝などの葺材と屋根頂部の押縁とみられるものがあり、表裏に互い違いの欠込がある垂木や、切欠きのある屋根構造材とみられるものがある。他の遺跡では、板接ぎが確認できるものとして、4枚の板を三角形状に縫ぎ、接ぐための小孔と楔と緊縛材があり、下辺に半円形の切欠きがある妻覆いが和邇・森本遺跡から出土している。半円形の切欠きは横架材が設置される部分なのであろう。欠込のある材として、横架材とみられるものと前段階と同じ形態の垂木が西隆寺下層遺跡にある。前者は心持ち削り出し材、後者は丸太材である。渡りあごとみられる加工がある材は、中町西遺跡から出土している。端部を切欠いた丸木材が井戸枠部材として使用されていた例が伴堂東遺跡にみられる。またほぞ穴や切欠き、溝などの加工のある大型の板材は南郷大東遺跡や和邇・森本遺跡に多数みられる。壁板や水平構造材となるものであろうか。扉口装置としては、一木から突出する軸部と搬形の把手が造り出され、その側面に方形の貫通孔がある扉材が南郷大東遺跡と和邇・森本遺跡から複数出土している。また軸部はあるが把手がないもの、あるいはほぞ穴が穿たれるものがあり、和邇・森本遺跡や伴堂東遺跡から出土している。和邇・森本遺跡の扉材では、大小様々なものがあることが確認できる。それ以外の扉口装置として、南郷大東遺跡に半円形の割り込みと軸穴のあるもの、方形の割り込みと軸穴とほぞ穴のあるものの2例の蹴放し材とみられるものがある。梯子では前期と同じ形態の一木造のものが十六面・薬王寺遺跡から出土している。

後期には、正面木口に転びをもち、重弧文風の飾りをほどこした円柱状の突出をもつ棟端飾りとみられるものが平城京左京三条二坊下層遺跡から出土している。円柱状の突出部分には破風板をはじめたのであろう。他遺跡で栓として報告されているものの中に、この種の製品が含まれている可能性がある。また、同遺跡からは古墳時代前期以来みられた妻覆いが出土している。孔と切込みがある直角三角形の板材である。同じく前期以来みられるものとして、一定間隔ではほぞ穴の穿たれた材と、その中に別に円形孔が穿たれている扉関係材の可能性がある材が、布留遺跡から出土している。布留遺跡ではほかに、直交する面それぞれにほぞ穴がある角材や、中期の南郷大東遺跡にみられた屋根構造材である切欠きのある材、両端

の中央にほぞが造り出された井戸枠材とみられるものがそれぞれ出土している。端部に切欠きのある材は、勝山東古墳からも出土している。大型の部材として、ほぞ穴と未貫通の方形孔が一定間隔である横架材とみられるものが、星塚1号墳から出土している。同じく大型部材の幅広い切欠きのある板材が、布留遺跡と御墓山古墳から出土している。この両者は類似するが、前者は芯持ち削り出し材で、後者は板目材である。やや複雑な仕口を持つ材として、ほぞが造り出され、その部分に小孔と木釘があり、凸形の未貫通孔が穿たれた角材が勝山東古墳から出土している。木取りは割り材削り出しだ。一木から足掛け部が造り出された梯子はこの段階にも存在し、平城京左京三条二坊下層遺跡と布留遺跡にみられる。

仕口総括表

時代	貫穴	渡りあご	相欠き(欠込・切欠き)	ほぞ	板接溝	繩掛け	溝	蟻ほぞ	括れ
縄文									
弥生	○	△	◎	○	△	◎	△	△	△
古墳	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎

### 文献一覧

1. 芝遺跡 (財) 桜井市文化財協会『芝遺跡第27次調査』桜井市内埋蔵文化財1997年度発掘調査報告書1 1998
2. 佐々木塚古墳下層遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『佐々木塚古墳』奈良県遺跡調査概報(第1分冊)1987年度 1990
3. 東安堵遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『東安堵遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第46冊 1983
4. 保津・宮古遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『保津・宮古遺跡第3次発掘調査報告』奈良県文化財調査報告書 第100集 2003
5. 藤原宮下層遺跡 奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ』奈良国立文化財研究所学報第37冊 1980
6. 高塚遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果2000
7. 能峰遺跡群(中島) 奈良県立橿原考古学研究所『能峰遺跡群Ⅲ』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第60冊 1999
8. 唐古・鍵遺跡 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡第60次発掘調査概報』田原本町埋蔵文化財調査概要15 1997
9. 平城宮下層遺跡 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告X』奈良国立文化財研究所学報第39冊 1981
10. 発志院遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『発志院遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第41冊 1980
11. 繼向遺跡 奈良県立橿原考古学研究所・桜井市教育委員会『継向』1976
12. 繫向石塚古墳 奈良県立橿原考古学研究所・桜井市教育委員会『綾向』1976  
奈良県立橿原考古学研究所「綾向石塚古墳」「奈良県遺跡調査概報1976年度」1977
13. 城島遺跡 桜井市教育委員会『桜井市城島遺跡外山下田地区発掘調査報告書』1991
14. 西坊城遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『西坊城遺跡』奈良県文化財調査報告書 第83集 1999
15. 戸石・辰巳前遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『野山遺跡群Ⅲ』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第66冊 1992  
奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究

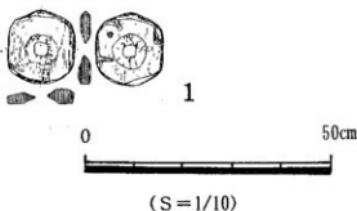
成果 2000

16. 谷遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『宇陀地方の遺跡調査 IV 橿原町谷遺跡』『奈良県遺跡調査概報 1984 年度』(第二分冊) 1985  
奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000
17. 矢部遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『矢部遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 49 冊 1986
18. 西隆寺下層遺跡 奈良国立文化財研究所『西隆寺発掘調査報告書』奈良県教育委員会 1993
19. 中町西遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『中町西遺跡』奈良県立橿原考古学研究所調査告第 85 冊 2003
20. 十六面・薬王寺遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『十六面・薬王寺遺跡発掘調査概報』『奈良県遺跡調査概報 1981 年度』(第二分冊) 1983  
奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000
21. 南郷大東遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『南郷遺跡群Ⅲ』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第 74 冊 2003
22. 和爾・森本遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第 45 冊 1983  
奈良県立橿原考古学研究所『天理市和爾・森本遺跡Ⅱ』奈良県史蹟名勝天然記念物調査報告第 58 冊 1988
23. 伴堂東遺跡 奈良県立橿原考古学研究所『伴堂東遺跡』奈良県橿原考古学研究所調査報告第 49 冊 2002
24. 平城京左京三条二坊下層遺跡 奈良国立文化財研究所『平城京左京三条二坊』奈良国立文化財研究所学報第 25 冊 1975
25. 布留遺跡 埋蔵文化財天理教調査団『布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書』 1995
26. 星塚 1・2 号墳 天理市教育委員会『星塚・小路遺跡』天理市埋蔵文化財調査報告 第 4 集 1989
27. 御墓山古墳 天理市教育委員会『御墓山古墳』天理市埋蔵文化財調査概報 平成 4・5 年度(1992・1993 年) 1996
28. 勝山東古墳 桜井市教育委員会『纏向遺跡第 79 次発掘調査報告』平成 6 年度国庫補助による発掘調査報告書 2 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 16 集 1995

遺跡名：芝遺跡 所在地：奈良県桜井市 弥生時代前期末～中期初頭

文献：(財) 桜井市文化財協会『芝遺跡第27次調査』桜井市内埋蔵文化財 1997年度  
発掘調査報告書1 1998

1.円孔のある環状の材（ねずみ返しか、長径15cm、短径13.5cm、厚さ1.5～3cm。）

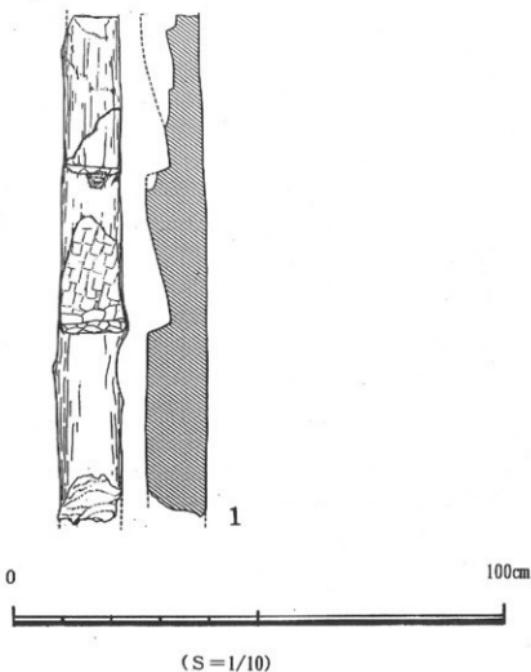


遺跡名：佐々木塚古墳下層遺跡 所在地：奈良県磯城郡川西町 弥生時代

文献：奈良県立橿原考古学研究所『佐々木塚古墳』奈良県遺跡調査概報（第1分冊）1987

年度 1990

1.丸太材を切欠いて足掛け部を造り出した梯子（長 130 cm、径 12.5 cm）



遺跡名：東安堵遺跡　所在地：奈良県大和郡山市　弥生時代後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『東安堵遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告

第46冊 1983

1.円孔があり、突起が造りだされ、そこに方形孔がある材（板材、長42cm、幅11.7cm）

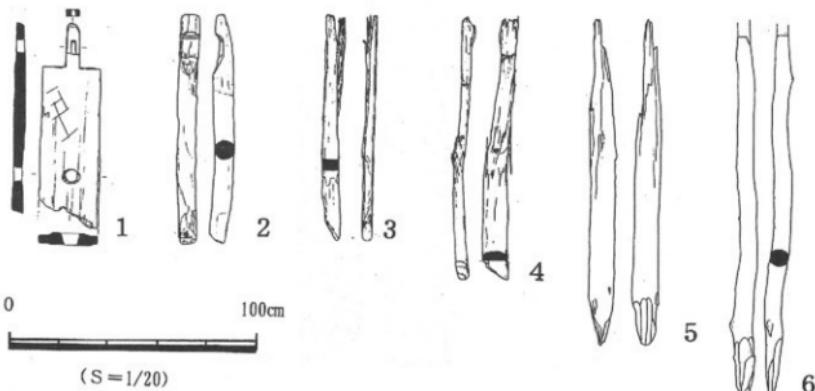
2.欠込のある材（垂木か）

3.（板材）

4.（板材）

5.（杭材）

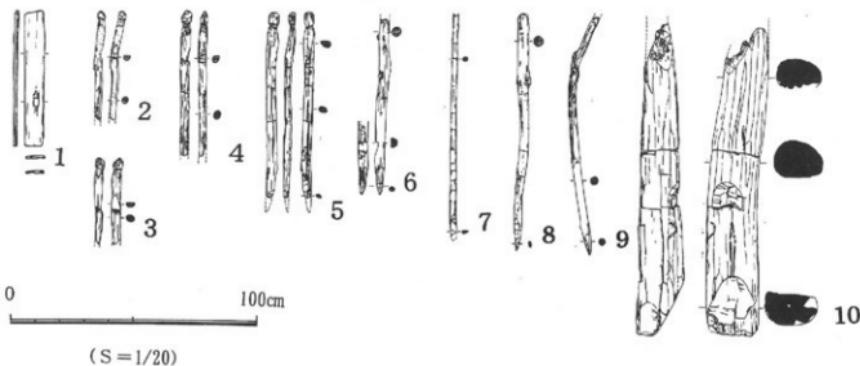
6.（杭材）



遺跡名：保津・宮古遺跡　所在地：奈良県磯城郡田原本町　弥生時代後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『保津・宮古遺跡第3次発掘調査報告』奈良県文化財調査報告書 第100集 2003

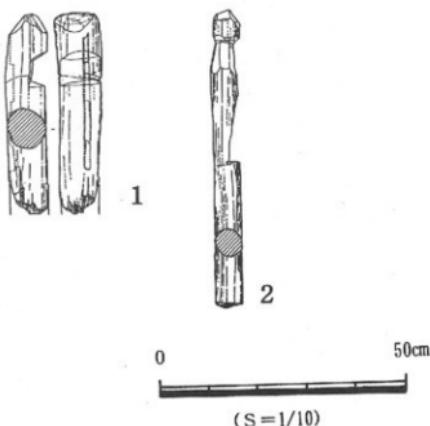
1. はぞ穴のある材（板材、長 55.2 cm、幅 8.65 cm）
2. 繩掛け溝と欠込がある材（しがらみの用材）
3. 繩掛け溝と欠込がある材（しがらみの用材）
4. 繩掛け溝と欠込がある材（しがらみの用材）
5. 繩掛け溝と欠込がある材（しがらみの用材、長 80 cm）
6. 端部を杭状にし、欠込がある材（しがらみの用材）
7. 端部を杭状にした材（しがらみの用材）
8. 端部を杭状にした材（しがらみの用材）
9. 端部を杭状にした材（しがらみの用材）
10. 扱りのある材（柱材か、長 126.9 cm、径 21.5 cm）



遺跡名：藤原宮下層遺跡　所在地：奈良県橿原市　弥生時代後期

文献：奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ』奈良国立文化財研究所学報  
第37冊、1980

- 1.欠込のある材（横架材か、長41cm、径7.7~8.2cm）
- 2.繩掛け溝と欠込がある材（垂木か、長63.6cm、径5.7cm）



遺跡名：高塚遺跡

所在地：奈良県宇陀郡櫛原町

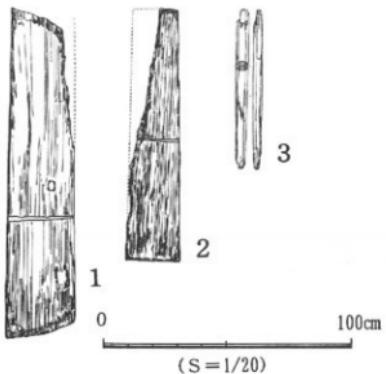
弥生時代後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000

1. ほぞ孔のある材（板材、長 141 cm、幅 28 cm、厚さ 2.3 cm）

2.（板材、長 104 cm、幅 22 cm、厚さ 1.2 cm）

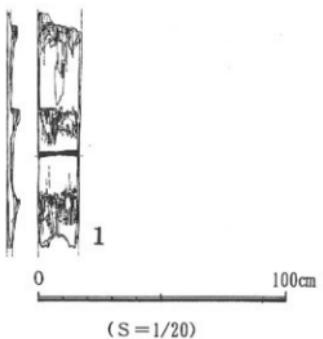
3.（棒材、長 65 cm、径 3.7 cm）



遺跡名：能峠遺跡群（中島） 所在地：奈良県宇陀郡棟原町 弥生時代後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『能峠遺跡群Ⅲ』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第60冊 1999

1. 一木から足掛部が造り出された梯子（長 95.9 cm、幅 16.5~17.5 cm、厚さ 1.5~2.5 cm）



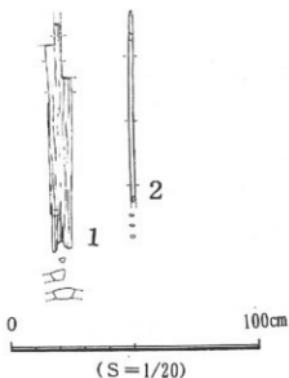
遺跡名：唐古・鍵遺跡 所在地：奈良県磯城郡田原本町 弥生時代後期～古墳時代前期

文献：田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡第60次発掘調査概報』田原本町埋蔵文化財調

査概要 15 1997

1. ほぞ穴のある材（板材、長 91.2 cm）

2. (棒材、長 82.1 cm、幅 2 cm、厚さ 1.1 cm)



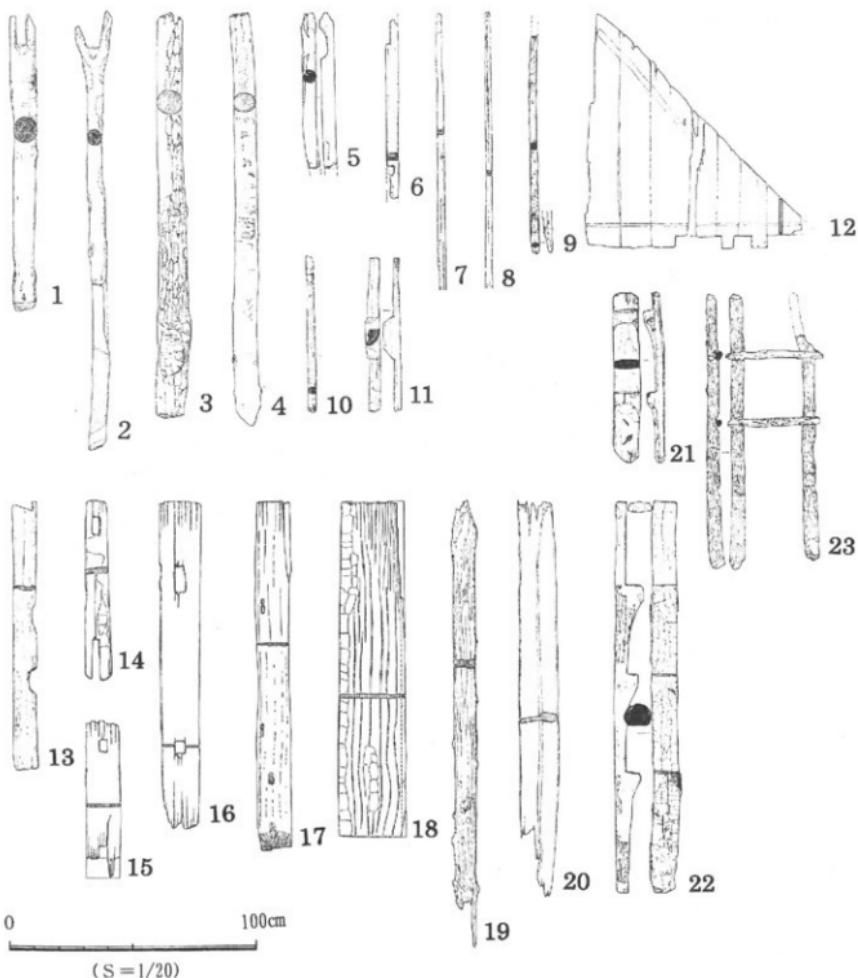
遺跡名：平城宮下層遺跡

所在地：奈良県奈良市

古墳時代前期

文献：奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告 X』奈良国立文化財研究所学報第 39 冊

1981



- 1.頭部が二股に枝分かれした材（柱材、長 179cm、径 7cm、コナラ亜属）
- 2.欠込のある材（柱材、長 163.2cm、径 12.0cm、マツ）
- 3.（柱材）
- 4.（柱材、長 167cm、径 9.0cm、ヒノキ）
- 5.欠込のある材（垂木か、長 62.4cm、径 5.0～5.4cm、リョウブ）
- 6.切欠きとほぞ穴のある材（角材、長 71.5cm、幅 5.0cm、ヒノキ）
- 7.（角材、長 120cm、幅 3.2cm、ヒノキ）
- 8.（角材、長 132.5cm、幅 2.8cm、ヒノキ）
- 9.杭状の加工のある材（棒材、長 88cm、径 2.5～3.8cm、コナラ亜属）
- 10.先端を斜めに加工した材（棒材、長 62.5cm、径 3.0cm、スギ）
- 11.突起のある材（長 61.7cm、幅 6.0cm、イチイ）
- 12.三枚の板を横につなぎ、切欠きをもつ材（妻覆い、長 92.4cm、幅 84.8cm、ヒノキ）
- 13.切欠きのある材（板材、長 108.7cm、幅 9.6cm、針葉樹）
- 14.ほぞ穴のある材（板材、長 73.6cm、幅 9.7cm、ヒノキ）
- 15.ほぞ穴のある材（板材、長 64.0cm、幅 13.5cm、ヒノキ）
- 16.ほぞ穴のある材（板材、長 133.0cm、幅 17.0cm、ヒノキ）
- 17.板接ぎのための小孔のある材（壁板か、長 142.0cm、幅 13.0cm、ヒノキ）
- 18.縦矧ぎの板接ぎのために側面に溝と目釘孔のある材（壁板か、長 137.4cm、幅 27.0cm、ヒノキ）
- 19.（板材、長 181.0cm、幅 9.0cm、イヌマキ） 20.（板材、長 158.4cm、幅 16.0cm、ヒノキ）
- 21.一木から足掛部が造り出された梯子（長 158.7cm、幅 11.0cm、コナラ亜属）
- 22.一木から足掛部が造り出された梯子（長 68.9cm、幅 10.6cm、コナラ属）
- 23.2 本の支柱に横木を渡す組梯子（長 111.5cm、幅 31.5cm、コナラ属）

遺跡名：発志院遺跡

所在地：奈良県大和郡山市

古墳時代前期

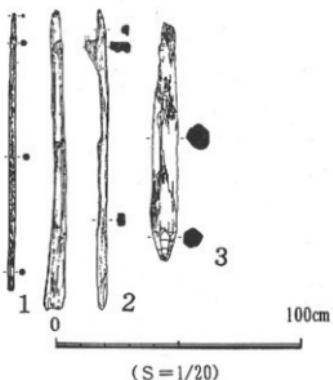
文献：奈良県立橿原考古学研究所『発志院遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告

第41冊 1980

1.径の一回り大きい部位を造り出す材（棒材、長 113.2 cm、コウヤマキ）

2.突出部と切欠きがある材（横架材か、長 122 cm、ヒノキ）

3.下端を杭状にする材（柱材、長 97 cm、幅 10.5 cm）

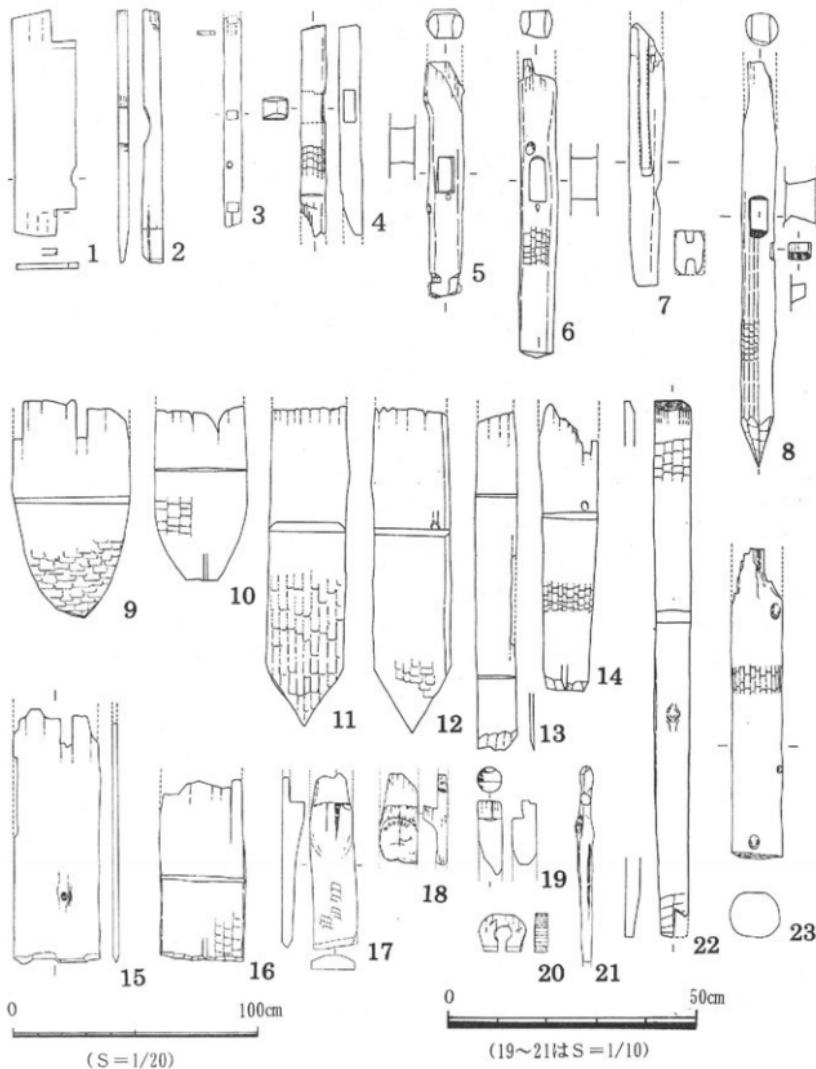


遺跡名：纏向遺跡

所在地：奈良県桜井市

古墳時代前期

文献：奈良県立橿原考古学研究所・桜井市教育委員会『纏向』1976



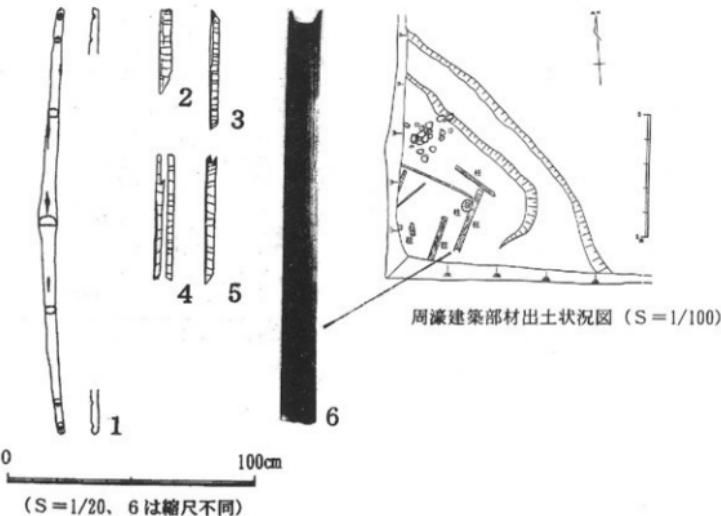
1. 切欠きのある材（板材、長 92.8 cm、幅 25.6 cm、厚さ 2.4 cm）
2. 半円形の抉りのある材（板材、104.4 cm、幅 8.8 cm、厚さ 4 cm）
3. ほぞ穴が一定間隔で穿たれる材（板材、長 85.6 cm、幅 7.2 cm、厚さ 1.6 cm）
4. 貫穴のある材（柱材か、長 86.4 cm、幅 10.4 cm、厚さ 8.8 cm）
5. 貫穴と抉りのある材（柱材か、長 96.4 cm、幅 16 cm、厚さ 10.4 cm）
6. 貫穴のある材（柱材か、長 122.8 cm、幅 15.2 cm、厚さ 11.7 cm）
7. 縦溝のある材（柱材か、長 107.2 cm、幅 18 cm、厚さ 10.1 cm）
8. 貫穴があり、端部を杭状にする材（矢板列の支柱、長 163.2 cm、径 13.6 cm、ヒノキ）
9. (矢板、長 88.4 cm、幅 48.8 cm、厚さ 3.2 cm)
10. (矢板、長 72.8 cm、幅 38 cm、厚さ 1.6 cm)
11. (矢板、長 116 cm、幅 32.4 cm、厚さ 2.8 cm)
12. (矢板、長 130.8 cm、幅 32 cm、厚さ 4 cm)
13. (矢板、長 139.6)
14. (矢板、長 107.2 cm、幅 18 cm、厚さ 12.1 cm)
15. (矢板、長 104 cm、幅 34 cm、厚さ 2.4 cm)
16. (矢板、長 74.4 cm、幅 34、厚さ 2 cm)
17. 一木から足掛部が造り出された梯子（長 69.8 cm、18 cm、幅 8.8 cm）
18. 一木から足掛部が造り出された梯子（長 36.5 cm、幅 15.7 cm、厚さ 10 cm）
19. 切欠きのある材（横架材か、長 15 cm、径 5 cm、ヒノキ）
20. 蟻ほぞを造り出した環状の材（径 3.3×3.1 cm、厚さ 2.8 cm、カシ）
21. 抜りを入れ頭部を造り出した材（棒材、長 15 cm、径 5 cm）
- 22.両端を斜めに削り、小口の厚みを減じた材(板材、長 220 cm、幅 15.2 cm)
- 23.(柱材、長 126 cm、径 20.4×18.8 cm)

文献：奈良県立橿原考古学研究所・桜井市教育委員会『纏向』1976

奈良県立橿原考古学研究所「纏向石塚古墳」『奈良県遺跡調査概報 1976 年度』

1977

- 1.両端に抉りのある材（棒材、長 174.8 cm、幅 2.6 cm、厚さ 1.9 cm）
- 2.端部を斜めに切り落とした材（角材、長 34.4 cm）
- 3.端部を斜めに切り落とした材（角材、長 48.4 cm）
- 4.（角材、長 17 cm）
- 5.端部を斜めに切り落とした材（角材、長 52 cm）
- 6.上端に欠込のある材（柱材、長 265 cm）



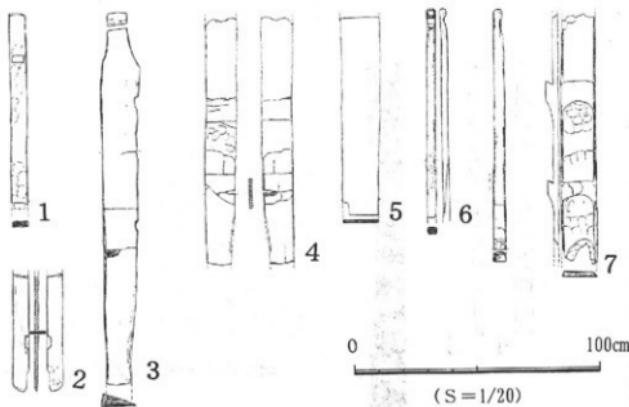
遺跡名：城島遺跡

所在地：奈良県桜井市

古墳時代前期

文献：桜井市教育委員会『桜井市城島遺跡外山下田地区発掘調査報告書』 1991

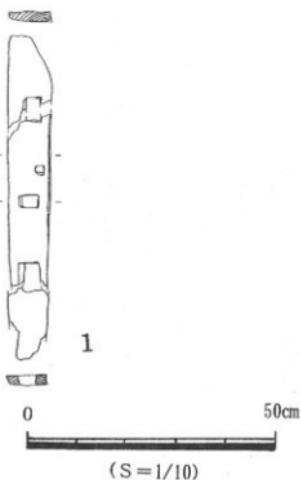
1. はぞ穴のある材（板材、長 77 cm、幅 7 cm）
2. 扱りのある材（板材、長 47.4 cm、幅 6.4 cm）
3. 端部に弧状の抉りのある材（板材、長 144.2 cm、幅 14.4 cm、厚さ 5.6 cm）
- 4.（板材、長 100 cm、幅 12.3 cm、厚さ 1.3 cm）
- 5.（板材、長 80 cm、幅 14.8 cm、厚さ 1 cm）
6. 欠込のある材（垂木か、長 84 cm、幅 3.6 cm、厚さ 2.8 cm、針葉樹）
7. 扱りにより頃部が造り出された材（垂木か、長 97 cm、幅 5.2 cm、厚さ 4 cm、針葉樹）
8. 一木から足掛け部が造り出された梯子（長 102 cm、幅 14 cm、厚さ 4 cm、針葉樹）



遺跡名：西坊城遺跡　所在地：奈良県大和高田市　古墳時代前期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『西坊城遺跡』奈良県文化財調査報告書 第83集 1999

1.ほぞ穴のある材（板材、長66.1cm、幅8.7cm、厚さ2cm）



0 50cm

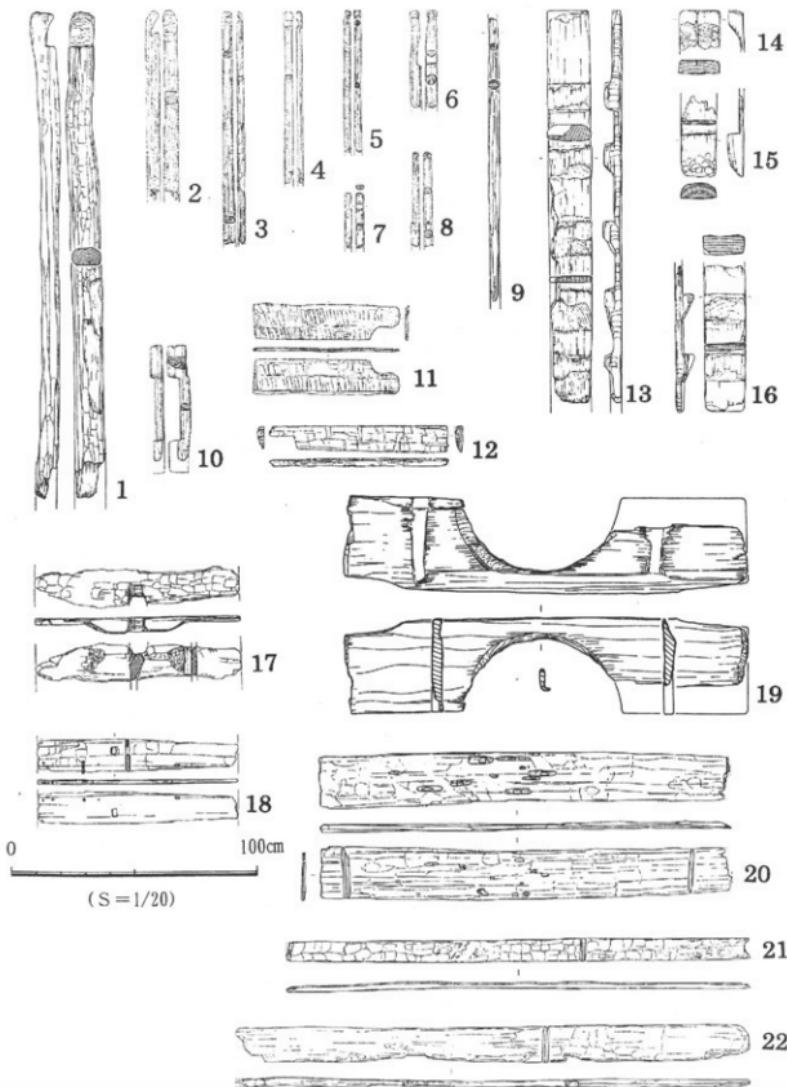
(S=1/10)

遺跡名：戸石・辰巳前遺跡　所在地：奈良県宇陀郡棟原町　古墳時代前期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『野山遺跡群Ⅲ』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第

66冊 1992

奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000



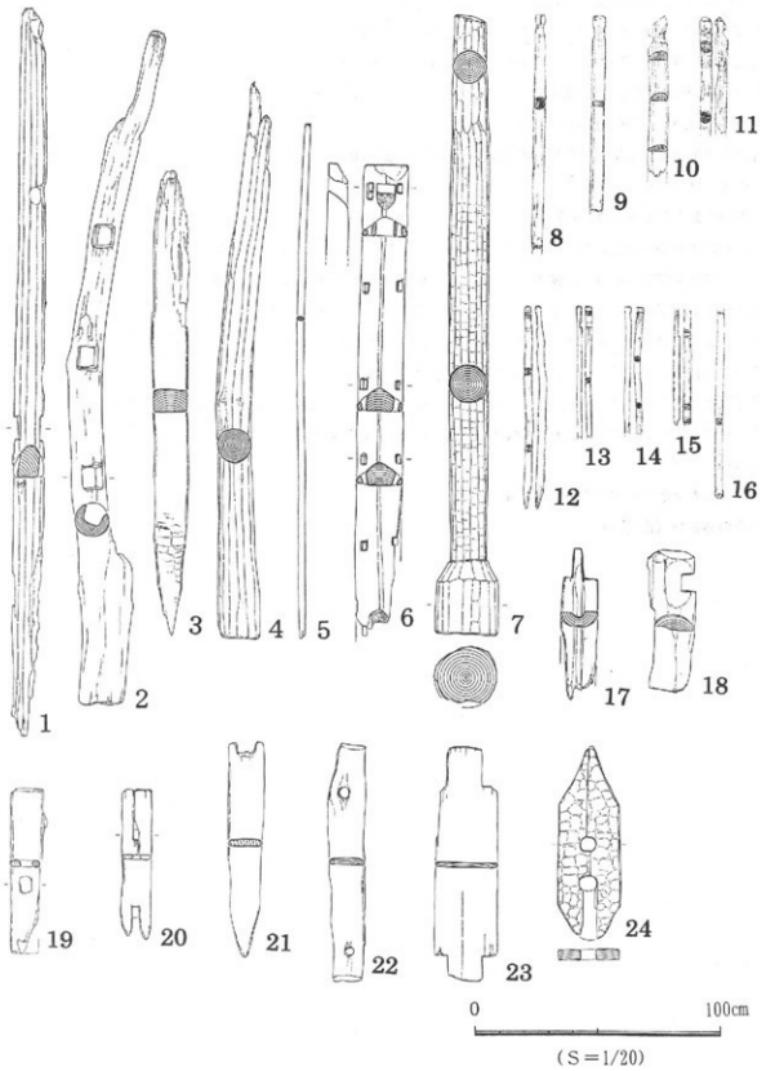
- 1.欠込のある材（横架材、長 200.3 cm、幅 12.5 cm、厚さ 7 cm、ヒノキ科）
- 2.欠込のある材（横架材、長 77.7 cm、幅 6 cm、厚さ 5.7 cm、ヒノキ科）
- 3.欠込のある材（垂木、長 95.6 cm、幅 5 cm、厚さ 2.9 cm、カヤ）
- 4.頭部を造り出し、更に欠込のある材（垂木、長 70 cm、径 2.1 cm、ヒノキ）
- 5.縄掛け溝のある材（垂木か、長 58 cm、径 2.5 cm、ヒノキ）
- 6.縄掛け溝と欠込のある材（垂木、長 40 cm、径 4.3 cm、モミ属）
- 7.欠込のある材（垂木、長 22.5 cm、幅 3 cm、厚さ 2.5 cm、ヒノキ）
- 8.縄掛け溝のある材（棒材、長 28.8 cm、径 2 cm、ヒノキ）
- 9.小孔が穿たれた材（棒材、長 117 cm、径 4 cm）
- 10.両端が長方形状に造り出された材（把手か、長 48 cm、幅 16 cm、ヒノキ）
- 11.括れのある材（板材）
- 12.L字形の切欠きがある材（板材）
- 13.一本から足掛部が造り出された梯子（長 162.2 cm、幅 17.6 cm、厚さ 7 cm、ヒノキ）
- 14.一本から足掛部が造り出された梯子（長 15.8 cm、幅 17.4 cm、厚さ 6.6 cm、ヒノキ）
- 15.一本から足掛部が造り出された梯子（長 33.4 cm、幅 14.8 cm、厚さ 6.6 cm）
- 16.一本から足掛部が造り出された梯子（長 60.3 cm、幅 16.8 cm、厚さ 8 cm、ヒノキ）
- 17.円孔のある材（ねずみ返し？、長 83.5 cm、幅 16.2 cm、モミ属）
- 18.板接ぎのための小孔と樹皮の紐があり、ほぞ穴がある材（壁板？、長 81.6 cm、幅 12.8 cm、厚さ 2 cm）
- 19.弧状の切欠きと溝がある材（板材、164.4 cm、幅 39.2 cm、厚さ 4 cm、コウヤマキ）
- 20.（板材）
- 21.弧状の切欠き？がある材（板材、ヒノキ）
- 22.ほぞ穴のある材（桁材？）

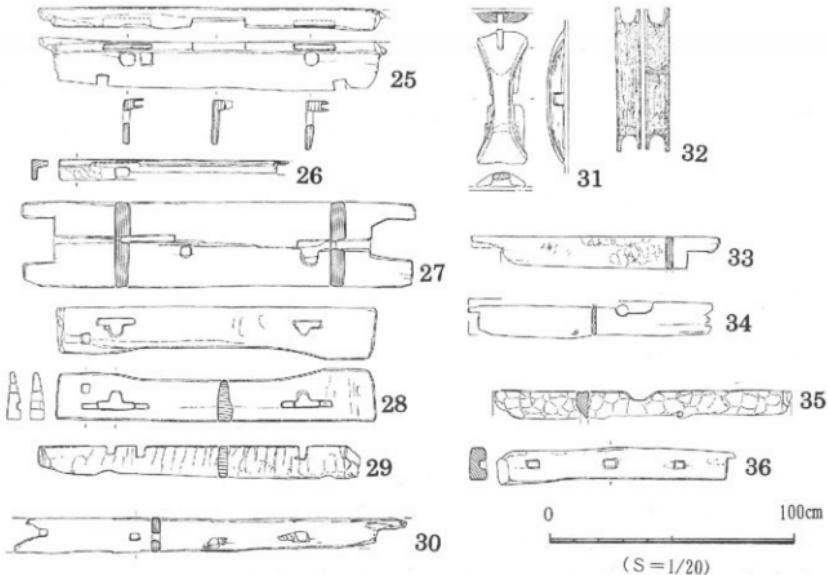
遺跡名：谷遺跡　所在地：奈良県宇陀郡棟原町　古墳時代前～中期

文献：奈良県立橿原考古学研究所「宇陀地方の遺跡調査 IV 棟原町谷遺跡」『奈良県遺跡

調査概報 1984 年度』(第二分冊) 1985

奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000





1. 渡りあごのある材（横架材か、長 298 cm、幅 13 cm、厚さ 13 cm、モミ属）
2. 貫穴のある材（柱材か、長 279 cm、幅 21.8 cm、径 15 cm、クリ）
3. 下端を杭状に鋸くした材（角材、柱材か、長 190 cm、幅 14 cm、厚さ 9 cm、カヤ）
- 4.（柱材、長 227 cm、幅 17 cm、径 14 cm、モミ属）
- 5.（棒材、長 211 cm、幅 3 cm、厚さ 2 cm、ヒノキ科）
6. 横断面三角形で斜め方向に抜ける方形孔がある材（棟押か、長 191.6 cm、幅 18 cm、厚さ 10 cm、モミ属）
7. 端部に一回り径の大きい部位を造り出す材（柱材か、長 254 cm、径 16 cm、コウヤマキ）
8. 繩掛け溝のある材（垂木か、長 97 cm、径 5 cm、モミ属）
9. 側面を切欠き頭部を造り出した材（垂木か、長 80.5 cm、幅 5 cm、厚さ 2.3 cm、ヒノキ科）
10. 扱りを入れ頭部を造り出した材（垂木か、長 66.2 cm、幅 8 cm、厚さ 3 cm、ヒノキ科）
11. 繩掛け溝と欠込のある材（垂木か長 48 cm、径 4 cm、モミ属）
12. 欠込があり、下端が杭状になる材（垂木か、長 83.2 cm、径 3 cm、モミ属）
13. 欠込のある材（垂木か、長 53.5 cm、幅 2.8 cm、厚さ 2.2 cm、ヒノキ科）
14. 欠込のある材（垂木か、長 52 cm、径 2.6 cm、モミ属）
15. 切欠きのある材（棒材、長 46.6 cm、幅 2.8 cm、厚さ 2.4 cm、モミ属）
- 16.（棒材、長 77 cm、径 2.8 cm、モミ属）
17. 突起と溝のある材（板材、長 62 cm、幅 15 cm、厚さ 6.2 cm、ヒノキ科）
18. 欠込のある材（板材、長 57 cm、幅 20 cm、厚さ 5.8 cm、クリ）
19. ほぞ穴のある材（板材、長 66.7 cm、幅 16 cm、厚さ 2.8 cm、ヒノキ科）
20. ほぞ穴のある材（板材、長 60 cm、幅 13 cm、厚さ 2 cm、ヒノキ科）

- 21.切欠きのある材（板材、長 87.2 cm、幅 15 cm、厚さ 3 cm、コウヤマキ）
- 22.ほぞ穴のある材（板材、長 97 cm、幅 16.5 cm、厚さ 3 cm、ヒノキ科）
- 23.切欠きにより突起が造り出された材（板材、長 95 cm、幅 26 cm、厚さ 3.1 cm、ヒノキ科）
- 24.ほぞ穴のある材（板材、長 79 cm、幅 26 cm、厚さ 4.5 cm、ヒノキ）
- 25.垂直に立ちあがる突起と突起に彫り込まれた溝と軸孔と切欠きのある材（材、長 141 cm、幅 21 cm、ヒノキ科）
- 26.垂直に立ちあがる突起と軸孔のある材（材か、長 93 cm、幅 9 cm、ヒノキ科）
- 27.両端にコの字形の切欠き、その中央からのびる溝と軸孔がある材（蹴放し材、長 160 cm、幅 35 cm、厚さ 6.5 cm、モミ属）
- 28.側辺に浅く大きい弧状の抉りと凸形孔と方形孔がある材（脚構造材か、長 130 cm、幅 22 cm、厚さ 6.5 cm、ヒノキ科）
- 29.切欠きのある材（板材、長 130 cm、幅 14 cm、厚さ 4 cm、ヒノキ科）
- 30.ほぞ穴が一定間隔で穿たれる材（壁受け材か、長 160 cm、幅 14 cm、厚さ 3.6 cm、モミ属）
- 31.側面に方形の貫通孔と端部に溝がある材（扉把手、長 55.5 cm、幅 21 cm、厚さ 4.5 cm、モミ属）
- 32.両端を半円形に切欠き、幅広の溝が彫り込まれた材（板材、長 60 cm、幅 9.7 cm、ヒノキ科）
- 33.両端にL字形の切欠きをもつ材（板材、長 101 cm、幅 13 cm、厚さ 3 cm、ヒノキ科）
- 34.ほぞ穴のある材（板材、長 99 cm、幅 16 cm、厚さ 1.9 cm、ヒノキ科）
- 35.半円形の抉りのある材（板材、長 120 cm、幅 12 cm、厚さ 5 cm、ヒノキ科）
- 36.未貫通の方形孔が一定間隔で穿たれる材（板材、長 97 cm、幅 14 cm、厚さ 6.9 cm、クリ）

遺跡名：矢部遺跡

所在地：奈良県磯城郡田原本町

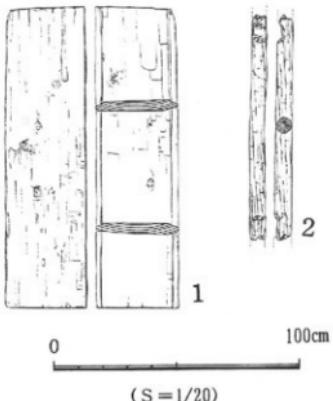
古墳時代前・後期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『矢部遺跡』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 49

冊 1986

1.両側辺に段差を設けた材（板材、長 123 cm、幅 32.2 cm、厚さ 2 cm、ヒノキ）

2.切欠きのある材（横架材か、長 91.6 cm、径 6.9 cm、モミ）

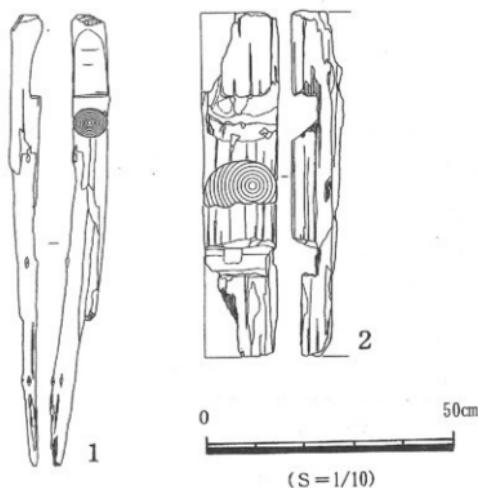


遺跡名：西隆寺下層遺跡　所在地：奈良県奈良市　古墳時代中期

文献：奈良国立文化財研究所『西隆寺発掘調査報告書』奈良県教育委員会 1993

1.欠込のある材（垂木か、長92cm、径6cm、ヒノキ）

2.欠込のある材（横架材か、長70.4cm、幅14cm、ツガ属）



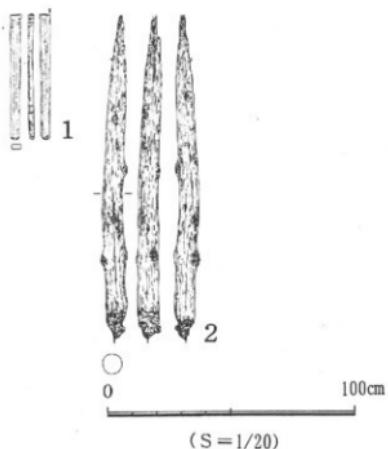
遺跡名：中町西遺跡　所在地：奈良県天理市　古墳時代中期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『中町西遺跡』奈良県立橿原考古学研究所調査報告

第85冊 2003

1. 渡りあごがある材（棒材、厚さ 1.9 cm）

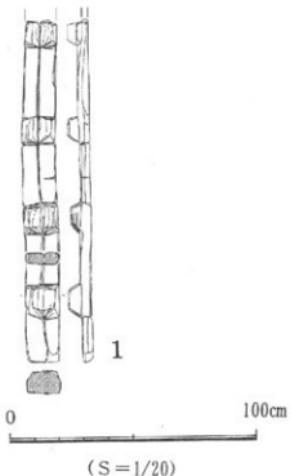
2.（杭材、長 132.4 cm、幅 10 cm）



遺跡名：十六面・薬王寺遺跡 所在地：奈良県磯城郡田原本町 古墳時代中期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『十六面・薬王寺遺跡発掘調査概報』『奈良県遺跡調査概報 1981 年度』（第二分冊）1983

奈良県立橿原考古学研究所『大和木器資料集成』橿原考古学研究所研究成果 2000  
1. 一本から足掛部が造り出された梯子（長 140 cm、幅 14 cm、厚さ 10 cm、アカガシ亜属）



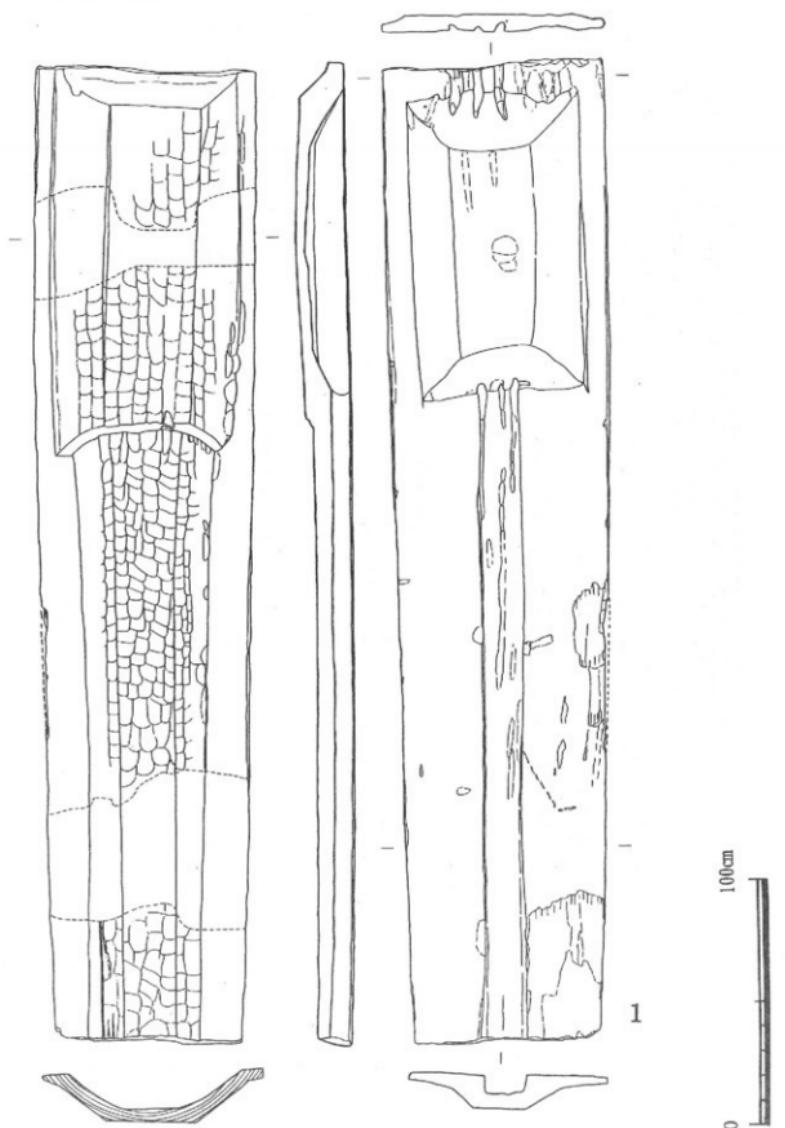
遺跡名：南郷大東遺跡

所在地：奈良県御所市

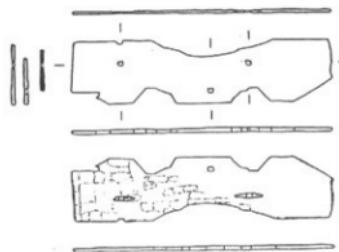
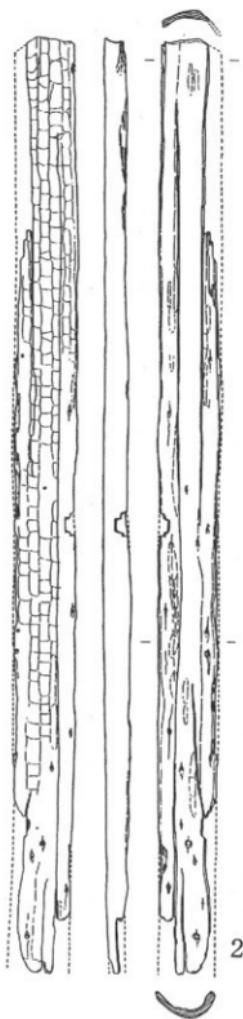
古墳時代中期

文献：奈良県立橿原考古学研究所『南郷遺跡群Ⅲ』奈良県立橿原考古学研究所調査報告第

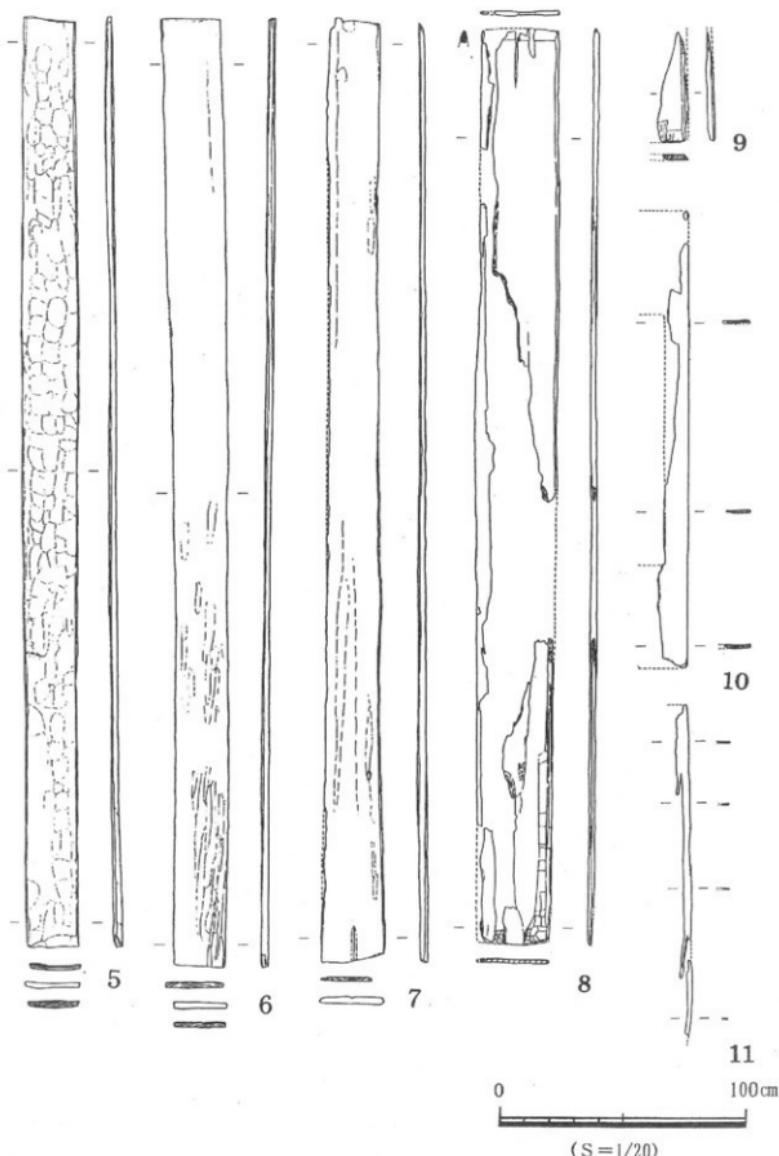
74冊 2003

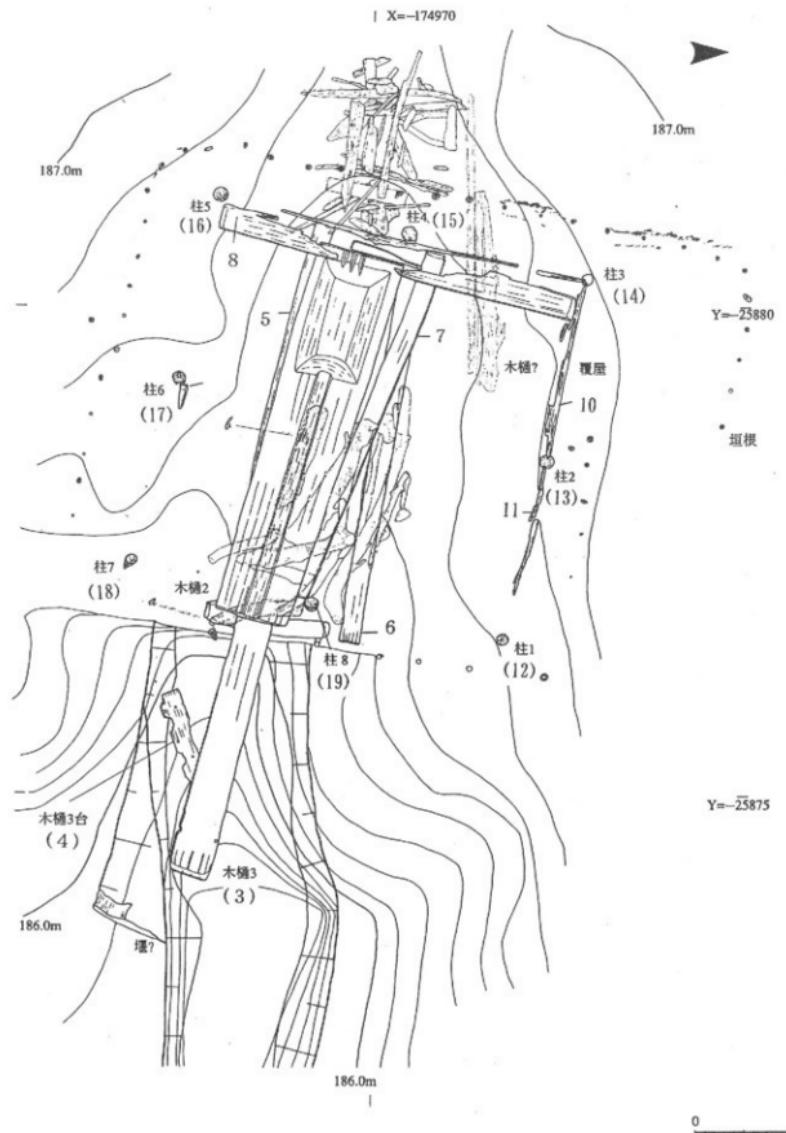


(S = 1/20)

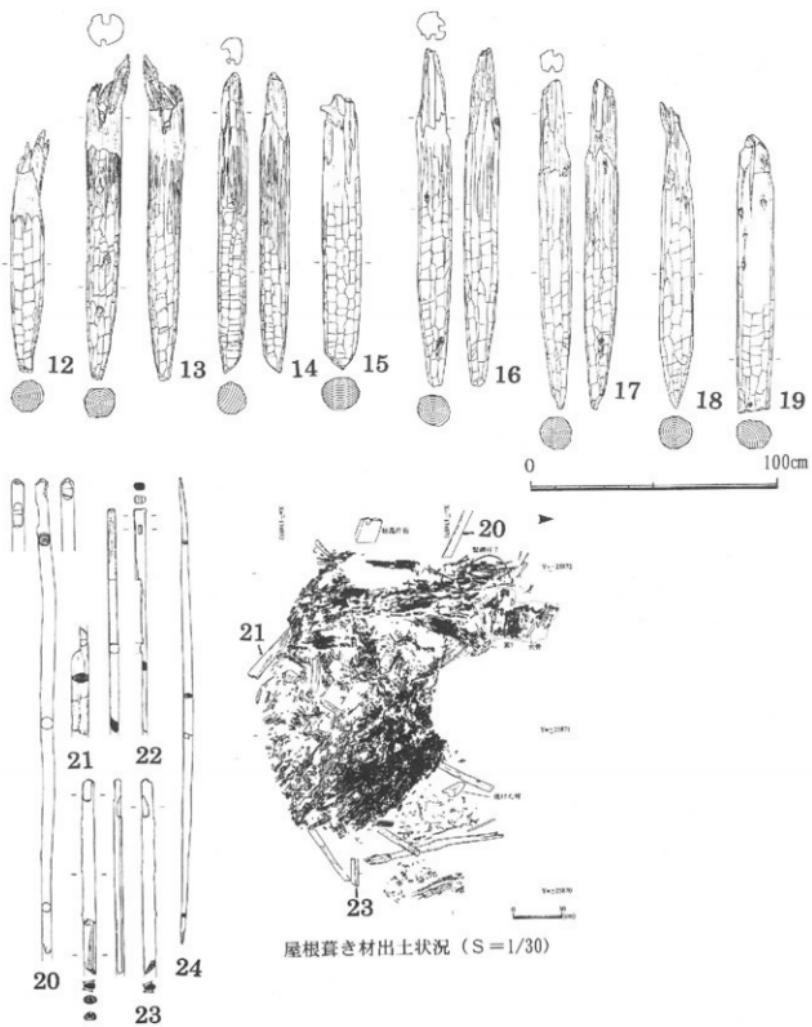


0                          100cm  
 $(S = 1/20)$





導水施設平面図 (S=1/50)



屋根葺き材出土状況 (S = 1/30)